

公立大学法人 滋賀県立大学

スチューデントファーム

「近江楽座」

まち・むら・くらしふれあい工舎

2011年度 活動報告書

はじめに

地域活動の想い

2004年から始まった近江楽座がとうとう10年目を迎えた。昨年も23のプロジェクトが、県内の地域はもとより県外にまでおよび、その活躍が広く知れ渡ることとなった。よそ者であり素人の学生たちを受け入れてくれる地域もごく当たり前のことのようにつきあってくれている。東日本大震災以降、日常生活の大切さや、日常に潜む豊かさを皆が気づき始めている。今ほど、人と人のつながりの大切さを感じている時はないだろう。

人々の社会活動にゴールはない。そこに参加して日々の営みとして活動の一員になり、謙虚な姿勢で学んでいく。手探りで工夫しながら自分たちで問題に立ち向かっていかなければならない。地域は教えてもらえるところではない。教室で配られる資料と授業で学んだと満足してしまうような姿勢では受けとめてもらえない。地域の主体性を尊重することは、学生たち本人の主体性への尊重にもつながっていく。貢献などという言葉はあとから着いてくるものだ。地域の願いや日常をつぶさに感じることができ、社会人として育っていくことが本学の教育プログラムとしての近江楽座の願いだ。そのために自分で学ぼうとするモチベーションを地域活動の中からつかみ取っていく。これこそ、人が自分で育つ大学という本学の開学からの理念だ。

7月には皇太子殿下が本学に行啓され、近江楽座の活動をご視察された。各プロジェクトの代表学生の声に耳を傾けられ、プロジェクトでの苦勞した点などのご質問をいただくとともに、たくさんの励ましのお言葉をいただいた。また、11月には近江楽座の活動が、滋賀県からの推薦を受け、内閣府特命担当大臣表彰（子ども・若者育成支援部門）を受賞した。多くのメディアでも取り上げられ、社会での評価が高まって

いる。学生たちにとっては地域で必要なこと、課題にむけてただ当たり前のことをやっているという素直な意識なのだ。しかし評価されることで学生たちは活動へのモチベーションをますます高めている。そして社会に注目されることで、地域が望んでいること、必要なことをさらに深く考えるきっかけとなっている。

10年の節目として、改めてこれまでの活動を振り返ることも必要だ。地域のなかで学生たちの活動がどのように受けとめられているのか、成果をどのように記憶されているのか。これからも新たな活動が続々と生まれていく。静かに閉じる活動もあるだろう。学生たちの活動の痕跡に目を向けよう。多くのひとが同じ想いを抱き始めた近江楽座という大きな流れのアーカイブを残していかなければならない。

平成 25 年 12 月
近江楽座専門委員会委員長

印南比呂志
(人間文化学部 生活デザイン学科)

1 近江楽座について

1-1 近江楽座とは

滋賀県立大学の“ スチューデントファーム「近江楽座」- まち・むら・くらしふれあい工舎-”は、地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する。」を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定し、全学的に支援する教育プログラムです。

平成16年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組み支援プログラム(現代GP)」に採択され、平成18年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取り組みとして学内外で高く評価されました。そして、翌平成19年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、平成24年度までの9年間で延べ 207 のプロジェクトが活動してきました。これまでに培ってきたノウハウや地域との繋がりを活かし、多彩な活動を展開しています。

教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

- 地域の課題に大学・学生が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局(地域共生センター)の連携の下、3つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

活動助成システム

“ スチューデントファーム「近江楽座」 ”として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。

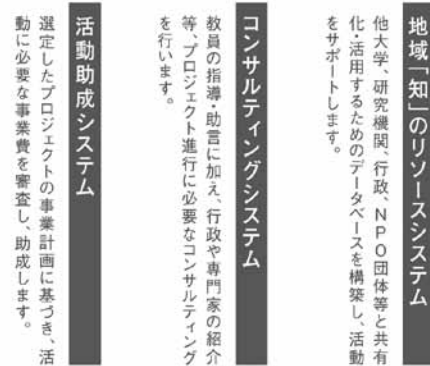
コンサルティングシステム

教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。

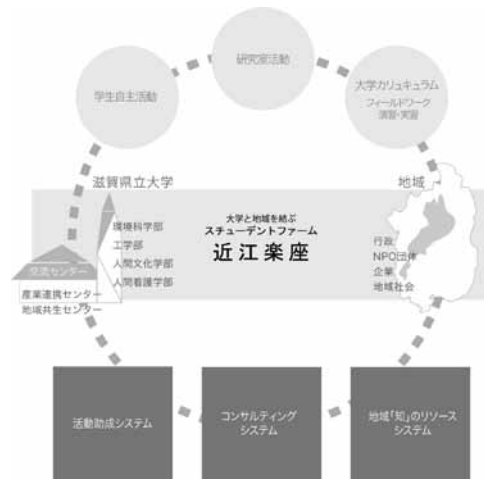
地域「知」のリソースシステム

大学と地域連携に係わる情報を他大学、研究機関、行政、NPO 団体などと共有化・活用するためのデータベースを構築し、活動をサポートします。

<3つのサポートシステム>



<サポートシステム概念図>



1-2 プロジェクト区分

平成19年度より、「地域活性化への貢献」をテーマに学生主体の地域活動を行う「Aプロジェクト」に加え、新たに、自治体や企業等から提示された課題について、学生主体のプロジェクトチームを結成し活動する「Bプロジェクト」がスタートしました。

| Aプロジェクト

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

昨年度までの継続活動を対象とした①「継続プロジェクト」、新規活動を対象とした②「新規プロジェクト」、さらに平成23年度から新たに③「Sプロジェクト」として、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクトで活動資金の助成を必要としないプロジェクト、の3つの区分で募集し、支援するプロジェクトを選定しています。

| Bプロジェクト

自治体や企業、団体等から依頼のあった課題について、「近江楽座」として取り組むテーマを設定し、学生主体のプロジェクトを募集します。学生チームにはテーマに対する企画提案を求め、採択されたチームは、指導教員と地域共生センターがフォローし、依頼先と共同で取り組みます。

Aプロジェクト

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト。

継続プロジェクト

Sプロジェクト（平成23年度より開始）

活動資金の助成を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指す取組み

新規プロジェクト

Bプロジェクト

学生主体のチームが自治体や企業等から提示された課題に、プロポーザル方式で企画提案を行い、選定されたチームと依頼先とが共同で取り組むプロジェクト（平成19年度より開始）

1-3 プロジェクトの採択について

プロジェクト募集期間

Aプロジェクト

日 時：2012年4月10日(火)～4月27日(金)

募集説明会

Aプロジェクト

日 時：2012年4月10日(火) 12:30～13:00

会 場：講義棟 A4-107

応募件数

Aプロジェクト

27チーム うち継続プロジェクト21件

(Sプロジェクト1件含む)、新規プロジェクト6件

プロジェクト審査

Aプロジェクト「公開プレゼンテーション・審査会」

日 時：2012年5月19日(土) 9:00-16:00

会 場：講義室 A3-301

内 容：プレゼンテーション(プレゼンテーションシートによるプロジェクト説明)および質疑応答、審査(非公開)

選定委員(順不同 敬称略)：

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ○滋賀県立大学理事・副学長 | 仁連孝昭 |
| ○滋賀県立大学環境科学部准教授 | 近藤隆二郎 |
| ○滋賀県県民活動生活課参事 | 倉本正樹 |
| ○特定非営利活動法人 HCC グループ代表
まちなか交流館館長 | 浅野智子 |
| ○半月舎舎主 | 上川七菜 |

採択および採択通知

Aプロジェクト

日 時：2011年5月24日(木)

通知方法：近江楽座ホームページ

および学生ホールの掲示板にて通知

採択件数

Aプロジェクト

23チーム うち継続プロジェクト18件

(Sプロジェクト1件含む)、新規プロジェクト5件

活動説明会

Aプロジェクト

日 時：2012年5月31日(木) 12:30～13:00

会 場：講義室 A4-107

内 容：活動全般にあたっての注意事項、事業計画、会計処理等の進め方に関する説明会

近江楽座は、
県大生の地域貢献活動を応援する
教育プログラムです。

最大10万円の助成金
活動相談・指導助言・広報支援

毎週に呼び出し、
毎週の人たちとふれあい
町民意識を育みながら
地域課題の解決を心ぎます!

2012年度
近江楽座
プロジェクト募集開始!!

募集期間 2012.4.10-27
審査会 2012.5.19
(公開プレゼンテーション)

詳細は近江楽座HPにて！ <http://kinokan.kuza.ac.jp/>

募集説明会あります！
2012.4.10 thu 12:30-13:00 講義棟 A4-107

<公開プレゼンテーションの様子>



2 各プロジェクトからの活動報告

2-1 活動実績報告

01	Shiga 食育推進プロジェクト	12
02	木興プロジェクト	14
03	菜の花エネルギー	16
04	とよさと快蔵プロジェクト	18
05	とよさらだプロジェクト	20
06	バンデイラ・ジ・オウロ	22
07	限界集落の村おこし	24
08	一姓	26
09	おとくらプロジェクト	28
10	あかりんちゅ	30
11	Living design 15th FASHION SHOW	32
12	ART FORUM 2011 DIG'S	34
13	内湖の侵略的外来生物駆除	36
14	いかして民家?	38
15	SenS - “縁”側でつながる人の“縁”-	40
16	Taga-Town-Project	42
17	信・楽・人-shigaraki field gallery project-	44
18	七曲りでいっちょやったるか!	46
19	レトロかふえ@能登川	48
20	未来看護塾	50
21	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト	52
22	cococu -おうみの暮らしかたろぐ-	54
23	石山アートプロジェクト	56

次ページ以降のチームデータについて補足説明

※近江楽座活動年度について

H : 不参加

H : 参加

を示しています

※メンバー数は、活動に関わった学生の総数です。

01 Shiga 食育推進プロジェクト



大学が行政・地域と進める食育

"食育"とは、食に関する知識、それを実践していく力を身につける教育のことです。この"食育"をテーマとして、大学・地域・行政が三位一体となった食育活動モデルを提案・発信し、地域の活性化を目指しています。

TEAM DATA

チーム名：県大地域食育推進隊
代表者：睦田めぐみ（人間文化学部）
メンバー数：約75名
指導教員：岡本秀己、佐々木一泰（人間文化学部）
活動場所：大学、彦根市、滋賀県内
関係団体：彦根市福祉保健部健康推進課
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

- 食育推進プロジェクトの活動シンボル・ツールの開発と普及【生活デザイン学科】
- 食育フェア
- NAKANIWA CAFE
- 特別支援児との食育活動
★見出し写真：第2回連続食育教室の授業風景(7/30)
- 収穫体験と食育活動
- 食育講演会
- デザインブランディング【生活デザイン学科】
- 他近江楽座団体との連携（一姓、とよさうだ、未来看護塾、Harmony、バンデラ・ジ・オウロなど）
- 彦根市内での骨密度測定
- ひこね井選手権ワーキングメンバー



ひこね井選手権 調理風景(11/22)

- ひこね食育推進委員会ポスター、ゴム印デザイン提供

活動の総括と提案（抜粋）

【生活栄養学科】今年度は、70人を超える学生がメンバーとして参加してくれ、昨年度以上に充実した活動を行うことができた。仲間と共に悩み、議論し、改善を重ねつつ活動を繰り返すことで、食育に対する思いがより強くなり、食育活動の質の向上も図れた。様々なイベントで食育活動を行っている栄養士の方や他団体の方と共に活動に参加させていただくことは、貴重な学習の場であり、様々な知識と経験を積む機会であった。

反省としては、今年度、イベントが多くあり元気フェスタに参加できなかったことである。今後は活動体制などを工夫する必要があるだろう。来年度は、今年度の「縦、横のつながり」という目標を継続して、生活栄養学科と生活デザイン学科の1～4年生が参加できる体制づくりを行う。また、1～3年生が活動に参加することで、引継ぎを円滑に行うことができる環境にしたい。「食育ツールの作成」については、最終的な目的が「食育ツールをインターネットで公開し、誰もが食育活動時に利用できるようにすること」なので、来年度も継続して食育ツールの作成を行い、必要に応じてツールの改善を行っていく。

【生活デザイン学科】この1年の「Shiga 食育推進プロジェクト」を通して、「食育」と「デザイン」のコラボレーションもおもしろいと感じた。一見、全く交わらなさそうな2つが交わることで、新たな発見や考えが生まれるものだなと思う。お互いが持つ問題点をお互いが持つ知識や視点によって解決へと結びつけることができた。提案した食育ツールが今後どのように使用され、展開されていくか、とても楽しみである。考えてもいなかった使用方法や遊び方が生まれ、Shiga 食育推進プロジェクトの中で役立つことを願う。

スキルアップ - メンバーの所見 -

「Shiga 食育推進プロジェクト」に参加することで、「食育」に対する関心や知識をひろげることができたと思う。また、食育イベントの参加や実態調査を通して、食育の持つ問題点を解決できるような「デザイン」側からの新しい食育ツールの提案ができた。

高橋真希

食育の実際の現場を見ることができ、参加しなければできなかった貴重な体験をすることができた。また、食育活動の効果はすぐに目に見える形で現れにくいということも知ることができた。この体験を今後の栄養士という仕事に生かすことができるようがんばりたい。

北川愛美

食育推進隊では、生活栄養学科2～4回生のスタッフの協力による縦の繋がり、他団体との連携による横の繋がりにより、食育の新しい可能性に気付くことができました。地域住民との関わり等、知識だけでなく実践的な食育を行うことができ、貴重な経験ができたと思っています。

松尾実奈

県大地域食育推進隊での活動を通して、地域や行政の方々とかさんのつながりを持つことができました。様々な方と食育活動を行うことで、一つの団体では作りだすことができない大きな力が生まれることを体感しました。活動で得た経験を、これからも生かしていきたいと思います。

睦田めぐみ

地域からのコメント (抜粋)

株式会社平和堂 CS 推進部 川上修さん

一緒に食育活動をさせていただくようになって2年目となりました。弊社の食育活動は、親子を対象にした活動や、小学生や保育・幼稚園児を対象にした活動を主に取組んでおり、昨年は、計6回の活動支援をいただきました。食育活動を行っているとき、学生の皆さんに共通していると感じたものは、地域の方々また小学生や園児たちに溶け込まれている姿でした。健康や食の大切さを伝えるだけでなく、人と人とのつながりの大切さを伝えるものでした。引き続き、地域の方々に喜んでいただける活動になれるよう、弊社とも一緒に取組んでいただけたらと考えています。

指導教員より (抜粋)

人間文化学部 岡本秀己

本年度は高島保健所からの依頼でイラストを作ったり、遊びながら学べる栄養指導媒体の製作、ひこね食育推進委員会のポスター、ゴム印の製作など、昨年度に増して様々な活動を行い、地域の健康推進・食育推進に大きく貢献できた。特に彦根市制75周年記念事業「ひこね丼」選手権では、何度も足を運び、栄養価計算、当日の運営や井作りの補助など、大きな貢献ができ、市民を巻き込んだ食育推進活動になったと思う。

また、特別支援学級に在籍する小学生の「食育教室」では、多くの学生、卒業生が参加してくれ、今後の発達障害児支援教育への大きな一歩となったこと、栄養教諭を目指す学生にとっても大変貴重な体験になったことと思う。今後も生活栄養と生活デザイン両学科の学生がお互いの専門を生かした地域の食育推進活動を継続できれば、「地域と行政を結ぶ大学の食育推進活動」が徐々に浸透していくと思う。

DELIVERABLE 成果物 / 制作物



nakanawa cafe カルシウムパネル



ひこね食育推進委員会 ポスター

02 木興プロジェクト



木工で復興のお手伝い

3月11日に発生した東日本大震災をうけ、「建築を学ぶ学生にこそできる支援活動を」とプロジェクトを立ち上げました。産業復興からの支援として、夏には宮城県南三陸町歌津地区にて漁業関係者のための小屋を建設しました。

TEAM DATA

チーム名：木興プロジェクト
代表者：上西慎也（人間文化学研究所）
メンバー数：33名
指導教員：布野修司（環境科学部）、山根周（人間文化学部）
活動場所：宮城県南三陸町
関係団体：宮城大学竹内研究室、NPO 法人環人ネット
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) 田の浦番屋建設

★見出し写真：番屋組み立て作業 (8/15)



番屋完成 (8/17)



漁に連れて行ってもらう (8/11)

(2) 2012 田の浦×木興カレンダー制作

(3) 仮設住宅即日設計ワークショップ

(4) ホアン邸デッキ制作（事前技術講習）

(5) 報告活動

活動の総括と提案

今年度は、漁業復興へ向けたハード面（番屋）の支援を行った。震災から半年過ぎた建設当時から一年過ぎた今日まで、番屋は漁師の方々によって十二分に使っていただいている。即効性は非常に高いものだったと感じている。問題は、今後どうして行くかである。

今回は漁師（漁港）への支援という形を取ったが、まだまだ失われ、必要とされるものは多い。田の浦においては、集落単位で集まれる集会所がほしいとの要望も聞いている。また、仮設での生活環境、今後の高台移転などのより大きな・異なった視点での課題がでてくるだろう。こうした部分への関わりが必要となってくるのではないだろうか。

滋賀という遠く離れた場所から具体的に現地とつながり復興支援をするのは非常に体力がいる。そういう点では、今回できた田の浦とのつながりは貴重なもので、これを活かした支援ができればと考えている。今後震災からの復興は非常に長いものとなっていくだろう。被災地の現状は刻々と変化していく。その時その時の状況に合わせ支援の形は変わっていくべきであり、大事なのは継続的にいかに現地と関わっていくかである。

スキルアップ - メンバーの所見 -

代表として言葉と態度が組織を動かしていく上で重要だと身に沁みた。何気ないお願いの言葉、ミーティングでの説明、ディスカッション、すべてにおいて代表の言葉が組織の動きを決める。また組織としての意思決定を行う場づくり、その場での意思の汲み取り方を学ぶことが出来た。

上西慎也

団体を統率すること。施工現場での既存の基礎部分との兼ね合いに関して想定外の事が多かった。時間が限られている中、想定外の問題を解消していくことが副幹事である自分の仕事であると自覚していた。周りの状況を把握し、メンバーの施工能力等を考慮しながら作業の割当を行うことができた。

櫻井藍

建築は用・強・美以外のものずっとずっと大切なことがあるのだと知ることができた。完成時、漁師さんに、「ほんとに嬉しい。プロに頼んだら早くてしっかりしたものが出来るだろうけど、そうじゃなくて気持ち嬉しい。」「絶対復興するから、またそんな時来て」と言って頂けて、これ以上無い嬉しさだった。

芦井絵利子

地域からのコメント

佐藤久次さん

去年の震災で全てを失ったんですが、夏に滋賀県立大学の学生さん達に震災前に我々が海作業の集会所として使っていた場所に木造ですが小屋を作ってくださいました。それから7ヶ月ほど立ちますが今では我々の浜作業には欠かせない小屋になっています。雨がふっても風が吹いてもそこに入れば安心です。現在浜には人の集まる場所はここ1ヶ所しかありません。田の浦地区を代表して学生さん達に心よりお礼を申し上げます。

指導教員より (抜粋)

環境科学部 布野修司

岐阜県高根村(現在は加子母村(中津川市))を拠点とするインター・ユニヴァーシティ・サマースクールと銘打つ木匠塾を立ち上げたのは1991年である。滋賀県立大学が参加を開始したのは2005年で、復旧復興支援と絡めて今年は被災地でやろうということになったのは自然の流れである。滋賀県立大学加子母木匠塾は、加子母のバックアップ(資材提供)を得て、宮城大学竹内准教授中心に行われた番屋プロジェクトにまず参加した。この経験を踏まえて、「木興プロジェクト」を発案、近江楽座の採択を受けることになった。

田の浦地区の再生に向けて、人間文化学部の山形蓮さん中心に、聞き書き集がまとめられるとともに、「田の浦ほたてあかりプロジェクト」という形のあらたな支援活動へ、活動は展開しつつある。次年度については、田の浦地区への支援は当然継続されるべきであるが、「木興プロジェクト」としては、建築することを通じて次なる展開を考えて欲しい。支援地域を拡大することも当然考えられる。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



2012 田の浦×木興カレンダー



トウキョウ建築コレクション 出展ボード

03 菜の花エネルギー



菜の花から始まる資源循環の輪

菜の花を休耕田で栽培し、取れた菜種油からバイオディーゼル燃料を作ることで、地域の方々への資源循環型社会の普及を目指しています。また、小学校や高校生へのエネルギー教育講座を実施し、理科の楽しさを伝えています。

TEAM DATA

チーム名：菜の花エネルギー
代表者：吉田千廣（工学研究科）
メンバー数：18名
指導教員：山根浩二、河崎澄、近藤千尋（工学部）
活動場所：大学、彦根市
関係団体：菜の花プロジェクトネットワーク（NPO）
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

- (1) 休耕田での菜の花栽培
★見出し写真：菜の花栽培草刈り (4/12)

- (2) 小学校出前授業



城西小学校出前授業 手のひら発電の実験 (11/4)

- (3) 湖風祭でのブース出展

- (4) 高大連携授業



バイオディーゼルカートの運転 (8/22)

- (5) びわ湖毎日マラソンでのブース出展

- (6) 学内空き地の菜の花畑化

活動の総括と提案

昨年度の活動と比較しても、今年度の活動は充実したものであったと思っています。小学校出前授業では、昨年度よりお世話になっていた城北小学校の教頭先生との繋がりで、稲枝東小学校にも出前授業をさせていただき、昨年度より1校増えての計3校での出前授業となりました。また、昨年度の課題であった「菜種油の食用化」においても、「菜の花館」での搾油依頼、および搾油後の精製方法のご教授などにより、食用化に成功し、お世話になっている農家の方々との「天ぶら会の開催」を達成することができました。

一方で、今年度の課題となった①学内菜の花畑の全体的な発芽、②高大連携でのバイオディーゼルカートの運転、などに加え、小学校出前授業での新たな実験内容の開発も、考えなくてはならないと感じました。この件については、訪問させていただいた小学校の先生からもご意見をいただいたり、他で同様の活動を行っている活動団体と比較しても、重要な点であると思います。

今後も菜の花エネルギーの活動をより発展させていく為にも、課題の克服、新規内容の開発などに尽力し、邁進していきたいと思っています。

スキルアップ - メンバーの所見 -

私は今年度、代表を務めさせていただきました。その上で、今年度の楽座チームとしての申請書作りや、訪問する小学校や菜の花館、農家の方々との連絡などを通じ、社会性というものが身についたのではないかと感じています。また、代表として活動する中で、責任感や使命感も芽生えたと感じています。

吉田千廣

小学生出前授業に取り組んだことで環境のことや体験実験の方法について、短時間で子どもたちに理解してもらうためにはどうしたらいいか、どんな劇なら伝わるか考えることがいい経験になりました。また、農家や小学校、菜の花館など様々な人々と交流が持てたことがよかったと思います。

坂口裕紀

中間報告の際に発表形式として与えられた動画作成が一つのスキルとして得られた。動画はこれまで活動紹介に使っていたパワーポイントやポスターなどとは異なり、見ている人に対して感覚的に訴えられる部分が大きいと感じた。チームとして今後も活用が期待できると考えられる。

熊澤直人

地域からのコメント

菜の花栽培でお世話になっている農家の方 吉島利博さん
「肥料撒きお疲れさま。今年も雑草が多いから、雑草の対策を頑張ろう。」

小学校出前授業での小学生のアンケート結果から (抜粋)
「バイオディーゼルの事をもっと知りたくなりました。」
「劇をしてくれたので、すごく分かりました。」
「前から『地球温暖化』は聞いていたけど、どういうものなのかは知りませんでした。でも今回の授業でよく分かりました。」
「氷で手が冷えたけど、プロペラを回せてうれしいです。」

指導教員より (抜粋)

工学部 山根浩二

出前授業に関しては、昨年度よりも学校数が増え、さらに他校PTAのウィークエンドクラブからの問い合わせもあり、今後の広がりが期待できる。また、菜の花の学内での栽培面積を広め、今後、菜の花だけでなく、ひまわりなど油糧植物にも着手してほしい。なお、これまでの実績をもとに、環境関係の外部資金獲得を行い、本学の補助に頼らない、持続可能な活動に移行してほしい。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



工学部敷地内に開墾した菜の花畑



収穫した菜種から搾った菜種油

04 とよさと快蔵プロジェクト



古民家を通じたつながりのデザイン

中山道沿いの街道町として発展してきた近江商人のまち“豊郷町”で、古民家・空き蔵の改修を通してまちづくりを行っています。また、まちあるきや事例調査、研修活動を通じて、新たなまちづくりの可能性を探っています。

TEAM DATA

チーム名：とよさと快蔵プロジェクト
代表者：中西政文（環境科学部）
メンバー数：約28名
指導教員：迫田正美（環境科学部）
活動場所：犬上郡豊郷町
関係団体：NPO 法人とよさとまちづくり委員会
近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22**

PROJECT

実施事業

- (1) とよさとまちあるき春の部【地域資産発掘ワークショップ】
- (2) とよさとまちあるき夏の部【地域資産発掘ワークショップ】
- (3) 前田邸改修作業
★見出し写真：梁補強作業（10/15）
- (4) 前田邸改修ワークショップ【古民家再生体験ワークショップ】
- (5) 古民カフェ【地域資産活用ワークショップ】



古民カフェ（12/4）

- (6) とよさと写真展【展示イベント】
- (7) 湖東シゴト学園【交流イベント】
- (8) とつと祭り出展
- (9) コスモスパンプキンフェスタ出展
- (10) 丹波・篠山研修
- (11) 富山研修
- (12) 湖風祭出展
- (13) 岡村本家酒蔵開き出展
- (14) 日夏まちあるき

活動の総括と提案

地域資産である古民家の活用法について周辺の地域住民の方々とともに考える機会をあまり設けられなかったこと、住民の方々の意見を物件の改修案に反映させて改修を進めることが上手くできていなかったことが昨年度の課題として挙げられた。

そこで今年度は地域の方々から古民家に触れることの出来る機会を設け、町にとって身近な地域資産である古民家の価値を住民の方々に認知してもらうことを目的とし、古民家改修ワークショップや古民家を会場としたイベント、意見交換ワークショップなどを企画した。各ワークショップ、イベントでは参加者から好評を得ることが出来、今まで関わりのなかった方たちが参加してくれたことについては成功したと言えるが、参加者数は予定より少なく、広報力の不足は改善することが出来なかった。また、今年度は生活デザイン学科の学生が4名、メンバーとして加入し、活動してくれた。例年、環境建築デザイン学科の学生がメンバーの大半を占めていたため、チームに新しい価値観、考えを取り入れることが出来たのは既存メンバーにとって良い影響を与えた。しかし、メンバー層が厚くなるにつれ、メンバー内での情報共有に関する課題が露になった。来年度以降、さらに組織的に活動が進められるようメンバー間の情報共有にはシビアに考えていきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

今年度、代表という立場で活動させてもらいました。至らぬ点も多く、メンバーや先生方に迷惑をかけることが多々ありましたが快蔵という団体を全体的に考えられる良い経験を積めたと感じています。来年度はこの経験を活かし、快蔵と豊郷をさらに盛り上げられるよう努力したいです。

中西政文

今年度の活動では屋根や建具など、実際に改修作業をする機会が多く、またそれらの改修の計画から実施までを担当したことで、木造の建築に関する知識や道具の使い方、スムーズに人を動かせる能力がついたように感じる。ただ机の上で勉強しているだけでは得られない貴重な力だと思う。

宮崎瑛圭

改修の中で多くの作業を、地元の方や先生方に手伝っていただいた。これらはスキルアップのために経験としてまとめていくべきだと思ったが、同時に、自分たちのすべきことは、プロに負けない技術を身に付けることよりも、学生にしかできない発想で地域の資産を活用していくことではないかとも考えた。

高橋朋之

地域からのコメント

とよさとまちづくり委員会 北川稔彦さん

みんな真面目に取り組んでくれているなど、一緒に活動していて感じます。作業やイベントなど、若い感覚で参加してくれたり、提案してくれたり頼もしく感じます。

また、地域の営農活動をされている「吉田楽農ファーム」等の方々も、学生が企画したイベントなどにも積極的に参加してくれます。先輩方これまでの活動もあると思いますが、地域の活動やイベントに参加していることや、BAR タルタルーガで地域の方と触れ合うことで信頼関係が築けているのかなと感じます。そういう熱い思いを、いかに後輩につなげて行くのかという事も課題の一つかと思います。期待しています。

指導教員より (抜粋)

環境科学部 迫田正美

一昨年度より検討してきた課題、1. 将来へ向けての活動の方向性を探ること、2. 学生による自立的な活動の在り方を探ること、3. 楽座の予算のみに頼らずに継続的な活動を行う可能性を探ること、などに対して3回生以下の若い世代を中心に意欲的に取り組んでくれた。本年度は、彦根市など一市四町によるまちづくり交付金の獲得を実現し、その予算を地域のまちづくりに活かす方法を模索したことは、その意味でも大変評価できる。

調査研修活動では、尾道に続いて、丹波、富山の活動団体との交流を進めた。日夏町の街歩きなどにも積極的に参加して、自分たちの街歩きイベントの企画に活かしてくれた。

民家改修では、2回生を中心によく頑張ってくれた。土間塗り、床張り、屋根の葺き替え、漆喰壁、タイル張り等、全ての工程を自分たちでやり遂げたことは、今後への自信につながったと思う。また、年間を通じて活動の記録を取り、それらをパネル展示やオープンハウスのイベントへとつなげることもできた。次年度は、地に足の着いた活動へ向けて更に努力してほしい。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



古民カフェ チラシ



湖東シゴト学園 チラシ

05 とよさらだプロジェクト



野菜で広がる、みんなの笑顔、地域の輪

犬上郡豊郷町で、耕作放棄された農地であるビニールハウスと露地を借り、野菜作りを行っています。地産地消の促進や無農薬野菜の提供、野菜作りの体験や地域とのつながりを目的として活動しています。

TEAM DATA

チーム名：とよさらだ

代表者：政木芽衣（環境科学部）

メンバー数：19名

指導教員：増田佳昭（環境科学部）

活動場所：犬上郡豊郷町

関係団体：NPO 法人とよさとまちづくり委員会

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) 野菜の栽培・販売

★見出し写真：耕耘機に初挑戦 (3/21)



白菜の害虫駆除 (12/11)



にんじん収穫 (12/11)

(2) 豊郷町でのお米の栽培

(3) 県大協同ファームの開墾、 他団体との共有

(4) 地域イベントへの参加

(5) 豊郷町加工センターで地域の方との共同 作業

活動の総括と提案

昨年築いた販売経路のおかげで今年は多くの場所で、とよさらだの野菜を出すことができた。さらに様々なイベントに参加し地域と密着した活動を行えた。作業に参加するメンバーも昨年に比べ倍に増え、役割分担することで作業効率が格段に上がった。今年はお米の栽培を行い、貴重な体験と共に栽培したお米をイベントで使用することで地産地消に大きく貢献することができた。今後の展開としては、現状維持をしつつ地元の人と協力して更に多くの人に、とよさらだの名前を知ってもらおう。更に知識を共有することで学生一人一人が野菜の栽培技術を高めたい。また他団体さんと協力した活動で学生間の交流を深めていきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

『とよさらだプロジェクト』は、昨年から彦根市の農産物直売所に、自分たちが作った野菜の委託販売をしています。その際に、他の農家の方や地元住民の方と野菜の販売価格の現状や、今はどんな野菜が人気なのか、手に取ってもらえるような野菜の包装の仕方などを会話の中で学ぶことができました。岡祐助

直売所や朝市に野菜を納品するようになって、以前よりもさらに計画的に野菜を育てることができるようになったと思います。継続的に野菜を納品できるように野菜それぞれの生育時期や収穫までにかかる月日を考慮するなど、販売することを意識した野菜づくりができるようになりました。岩井美咲子

会計の仕事を通して、サークル内の収支を管理していると、辻褄が合わないことが度々あり、お金を管理することの大切さと大変さを学びました。秋山明日香

地域からのコメント

DELIVERABLE

成果物 / 制作物

豊郷町役場産業振興課長 野村栄さん

とよさらだの皆さんは豊郷町の疲弊している農業に爽やかな微風が吹くように楽しく、パイプハウスでの農作業も熱心に取り組んでいます。地元の農家の皆さんも感心しております。昨年度に引き続き、町主催のイベント「とっと夏祭り」にも積極的に参加していただきました。さらに本年度は、農家からの田んぼ一反の水稲栽培や本町の特産物である「坊ちゃんかぼちゃ」を使った「手作りジャム」の開発など、本町の活性化に力を入れていただきました。今後も元気な皆さんのご活躍に期待しております。

指導教員より

環境科学部 増田佳昭

今年は、坊ちゃんカボチャのジャムへの挑戦や米作りなど豊郷町に密着した新たな取り組みが行われたほか、大学の県大協同ファームの耕作もはじまって、新たな発展があったとみられる。地元での活動も定着して存在感を増してきているようであるし、各種の販売活動も活発に行われている。それなりに収益を上げていることは、学生サークルとしては注目される点である。

今後、より期待されることは、関連団体との連携の強化と広がりであろう。野菜を作って売っただけだと自分たちの身内の活動にとどまってしまうがちだが、それに社会的な意義を持たせられるよう、学生同士で議論してみたらどうだろうか。



県大発！大好きブラジルプロジェクト

ブラジル人学校と保育園で放課後の学習指導や企画授業を行っています。在住外国人の子どもたちが継続的に日本語を習得できる環境づくりや、長期的な「自立」を図り、地域の一員として共に生きる関係を築くことが目的です。

TEAM DATA

チーム名：チーム・バンデイラ・ジ・オウロ

代表者：西田葵（人間文化学部）

メンバー数：12名

指導教員：河かおる、武田俊輔（人間文化学部）

活動場所：彦根市、愛荘町

関係団体：セスタバジカの会、ジラソル

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) 放課後学習支援事業

★見出し写真：子どもたちと遊ぶ様子 ペケーノ・ポレガールにて(3/21)

(2) レクリエーション事業



カルタで遊ぶ コレジオ・サンタナにて(1/23)

(3) 進学サポート事業

(4) 研修事業



学習会(11/28)

(5) 情報発信事業

活動の総括と提案（抜粋）

2年目の活動になる今年度は模索の一年であった。

ペケーノ・ポレガールでの活動では、小学生の学習支援や就学前の子ども保育のサポートを行った。メンバーが増えたので曜日を決めて継続的に活動を行うことができた。数名ではあるが、子どもたちが在籍している小学校を訪問し、先生に学校での様子・学習状況を教えてもらうことで、保育の時間に何をすべきかが見えてきた。

コレジオ・サンタナでの活動では「レクリエーション事業」として月一回工作などの企画授業を行った。近江楽座の「あかりんちゅ」や人間文化学部の「しが多文化保育研究会」といった他団体と協働して、一味違った授業を展開することもできた。

「研修事業」では、ポルトガル語の学習は進められなかった。学習会も予定より少なくなったが、内容は以前よりも濃いものにできた。他団体の視察、関連セミナーへの参加は、それまでの指導法や子どもたちへの接し方を見直す機会となり、大いにプラスになった。

今年度から始めた「情報発信事業」では、ブログや「在日外国人の教育を考える会・滋賀」開催のセミナーでの報告など、活動を外部に発信し、他団体と繋がりを持つ機会となった。活動をより充実させるために、ブログはタイムリーに更新すること、記録をこまめに残していくことが必要だと感じている。

今後の活動では、近江八幡で外国人児童の週末の教育サポートをしている「ワールドアミーゴ」で活動させてもらおうという計画が持ち上がっている。メンバーの増員にも力を入れる必要がある。ペケーノ・ポレガールやコレジオ・サンタナの先生方や子どもたちはいつも私たちに快く受け入れてくれており、大変感謝している。すぐに成果が出せる活動ではないが、少しずつ子どもたちが成長してくれているように感じる。これからも学生という立場だからこそできる支援活動を模索していきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

今年度は新しく、情報発信事業を立ち上げた。「在日外国人の教育を考える会・滋賀」主催セミナーで我々の活動を発表し、活動の悩みも打ち明けたところ的確なアドバイスを頂くことが出来た。我々の活動を多くの方に知ってもらうことの重要性が分かったので今後も積極的に外部に発信していきたいと思う。

小倉知美

去年は1年目で活動のベースをつくるのに精一杯だった。今年は人数が増えた分できることも広がり、後輩を引っ張っていかなくてはという意識が生まれるなど、組織の運営について考える機会が多い一年だった。チームとしての方向性を全員で共有して、来年度はさらに活動の質の向上をはかりたい。

後藤恵理

講演会や勉強会、他大学への視察、そして日々の活動を通じて、在日外国人やその子どもたちがかかえている言語や教育の問題を近くで知ることができた。また、月に一度のレクリエーションを企画、準備、実行をすることで、定期的に企画を行うことのむずかしさを知った。

廣嶋泉

楽座の報告会や外部への情報発信の際にプレゼンテーションや動画などで自分たちの活動を伝える機会が多くあった。それをきっかけに「私たちがどうしたのか」ということとそれを「どう相手に伝えるか」ということを考えた。この1年で伝えるという点においての技術は高められたと思う。

西田葵

地域からのコメント (抜粋)

DELIVERABLE

成果物 / 制作物

ジラソル、セスタバジカの会メンバー 平田輝子さん

外国人の子どもは言葉の壁や文化の壁により、私たちの想像を超える困難を抱えていることがある。弱い立場にある者が自己責任で学校や社会に適応して行くことはとても難しい。そこで必要になるのが一人でも多くの理解者を回りに増やすことだと私は考えている。

バンデira・ジ・オウロの活動は、継続的に支援や交流をして、外国人の子どもへの理解を深めている。とても価値のある活動であり、子どもたちにとっても生涯忘れることのできない出会いや体験になっていると思う。お兄さんやお姉さんが外国の子どもの喜ぶ顔を想像しながら活動を企画し、準備し、近くない距離を移動して、ともに楽しい時間を過ごす。そのすべてのエネルギーが子どもたちに注がれていると思います。この活動が継続され広がっていくことを、祈るような気持ちでいつも見えています。

指導教員より (抜粋)

人間文化学部 河かおる

バンデira・ジ・オウロの活動は、まだ規模の上でも質の上でも小さなものではあるが、活動を継続していく中で充実していくことが重要であろう。活動先のブラジル人学校、保育園でも学生の活動に対する期待や信頼が高まっている。メンバーの不足、交通手段の確保など課題は多いが、是非今後も活動を継続ほしいと願っている。

最後に、近江楽座のプロジェクト全般の運営のあり方に関して、(1)活動場所への移動について、楽座事務局で車を保有して貸し出す、経費でのタクシー乗車を認める(特に雨や雪の日)などの、現実的な対応策をご検討いただきたい。活動中に生じた事故についても大変気がかりであるので、きちんと整理して明示していただきたい。(2)ミーティングや活動に使う物品の置き場所にどのチームも課題を抱えている。一度、近江楽座専門委員会において各チームの実情を調査し、課題を整理した上で活動スペースの問題への対応策をご検討いただきたい。

07 限界集落の村おこし



いざ、茅刈らん

彦根市の東の端にある集落、男鬼町を中心とした山間集落の可能性を探り、文化的景観資源の保存と活用を考えます。今年度は、毎年恒例の茅葺き屋根の葺き替えイベント、茅場環境保全の為の獣害対策などを行いました。

TEAM DATA

チーム名：男鬼楽座
代表者：伏木詩織（人間文化学部）
メンバー数：18名
指導教員：濱崎一志（人間文化学部）、野間直彦（環境科学部）
活動場所：彦根市男鬼町
関係団体：---

近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22**

PROJECT

実施事業

(1) 定例ミーティング

(2) 多様な情報発信

(3) 茅葺き屋根の葺き替えイベント

★見出し写真：茅葺き屋根の葺き替え作業 (9/18)



茅運び (7/10)



男鬼茅刈イベント (11/23)

(4) 茅場の調査・保全

活動の総括と提案（抜粋）

一年間の活動を通して、反省する点は今回も茅葺き屋根の葺き替えイベントを中心として活動してしまったことだ。今年度から茅場の保全に力を入れようとしていたが当初考えていたよりも茅場の荒廃が進んでおり、また予算の関係で思ったように活動することができなかった。来年度は獣害ネットで囲う土地の範囲をさらに広め、状況を細かく視察・様子を見ていきたい。

今年度、茅葺き屋根の葺き替えイベントの際には、家をお借りしている大久保正一さんとそのお孫さんにお会いすることができた。もともと大久保さんはこれまでの男鬼町の状況から、集落の復活をあきらめられていた。しかし葺き替えイベントを通しきれいになっていく茅葺き屋根をみて、昔の集落の様子を思い出されたのか、当時の思い出を我々に話してくださいました。また、集会施設を開放していただいたり、以前よりも心を開いてくださっているように思えた。

元住民の方の高齢化は進んでおり、男鬼町への関心が薄れている。このままでは、男鬼町の歴史は数年のうちに伝承されずに消えてしまうかもしれない。それを阻止するために今後も男鬼町を中心とした活動を行い、我々が代わりに男鬼町について人々に伝えていかなくてはならないと思った。

今後の課題はいかにして元住民の方との関わりをもつかということと、茅場の保全活動である。元住民の方はほかの地域に移り住まれ、新たな生活を営まれている。せめて男鬼町のことを忘れてしまわれないよう集落の今を知らせる情報提供を行うなど繋がり続けたい。茅場の保全は、すぐに成果が表れるものではないので長い目で状況を改善していく。また活動メンバーの中心が3回生ということもあり、秋からの活動が鈍ってしまった。今後1、2回生のメンバーを増やし円滑に活動を進めていける体制にしたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

月並みですがやはりコミュニケーション能力が身に付いたと思います。イベントには一般の参加者や学生も多く参加されます。初対面の方がほとんどなので、緊張している人も多い。そこでよりイベントを楽しんでいただくために主催者側から積極的にコミュニケーションをとる必要がありました。

牧田昌樹

イベントにおける連絡係や持ち物係などメンバーの中で役割を分担していましたが、各係の情報が行き届かず、イベントの準備段階で混乱することがありました。それを踏まえ、イベントを実行する際には、メンバー間で頻りに話し合うことが不可欠だと思いました。

田郷綾菜

イベントを開催してみても学んだことは、参加者に満足していただけるようなイベントにするためには、当日までの準備をしっかりしなければならないということでした。準備の段階で茅葺きの知識や技術を学ぶことはもちろん、主催者としての自覚を持つことも必要だと気がきました。

石村友樹子

地域からのコメント

葺き替えイベント参加者 星野百合子さん

参加させていただき、ありがとうございました。皆さん温かく迎えてくださり、居心地がよくて、感動です。本当に素敵な仲間ですね。これからの活躍を、誰よりも楽しみにしています。台風…大丈夫だったかな。後片付け等、大変かと思いますが、よろしく願います。また会えるのをたのしみにしているねー。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



男鬼通信 春号

指導教員より

人間文化学部 濱崎一志

男鬼で生まれ育った方々が亡くなられたり、特別養護老人ホームに入居され、代替わりが進んできました。男鬼に暮らしたことのある古い世代が集落の維持にあたっています。無人の集落を荒らす人がいることから、寺は解体されてしまいました。こうした中で、今年は大久保さんが協力してくださいました。今までになかった変化です。来年につなげていきたいと思えます。



出会いの花を咲かそう！

今年度は「出会いの花を咲かそう！」を元に、農業の理解・関心を広めていくことを目的に活動しました。一姓畑ではお年寄り子どもをつなげ、県大協同ファームでは他団体と協力、農業体験イベントを行いました。また、大学での野菜販売も行いました。

TEAM DATA

チーム名：一姓
 代表者：丸山園加（環境科学部）
 メンバー数：19名
 指導教員：増田佳昭（環境科学部）
 活動場所：彦根市（一姓畑、県大協同ファーム）
 関係団体：西村農園

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

- (1) 県大協同ファーム
- (2) 野菜販売



学内での野菜販売 (7/20)

- (3) さつまいも掘りイベント

★見出し写真：Harmony さんとの合同さつまいも掘り業 (10/23)



開出今町の子どもたちとサツマイモ掘り (10/9)

- (4) 鍋交流会
- (5) びわ湖毎日マラソン出店

活動の総括と提案（抜粋）

前年度の反省を生かし、今年度の目標は主に①「植える」～「食べる」農業体験を子どもたちに提供する②県大共同ファームを通して、外部の人と交流する場を設ける③質の良い野菜を作る、であった。①については計画的に野菜の栽培を行い、さつまいもを植えるだけではなく同時に他の野菜の収穫をできるようにイベントを企画する必要がある。単発のイベントで終わってはいけなと考えており、今後も子どもたちを対象とした農業体験の方法を模索していきたい。さらに、よりよいイベントを目指すためにアンケートを実施する必要があると考えられる。②について、今年度はHarmony さん、未来看護さんとのさつまいも掘りイベント、おとくらさんとの糸苺祭と、近江楽座の他団体との合同イベントを数多く行った。この点において非常に有意義で、数多くの人々と出会い、ふれあうことが出来たと感じる。これらのイベントは県大共同ファームで行われた。これからも開出今町の畑と上手く使い分けをしながら交流の場としていきたい。最後に③について、前年度に引き続き今年度も土壌改良を行い、野菜の生育にも向上が見られた。しかし一方で当番が上手く回らずに苗を枯らしてしまうことがあった。

当番を決めて頻繁に畑に通うことによって、近隣の人々と顔見知りになり、会話が生まれる。地域活性においてこうしてコミュニケーションをとることは非常に重要だと考える。今後、県大ファームでは、畝を黒いビニルで覆い雑草が生えるのを防ぐ「マルチ栽培法」を試してみたいと思う。改善されてきた土壌改良と並行し、当番や人手不足を解消して来年度の活動では立派な野菜を収穫することを目標にしたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

新代表として関わるようになって、物事を計画し進めていく難しさを学びました。何週間も前から様々な人と連絡を取り合い、何が必要か考え、スケジュールを組み立ててチームを動かさなければなりません。代表という立場は生半可な気持ちでは出来ませんが、とても貴重な経験です。

川淵衣里子

人と人の繋がりが大切であるということを学びました。普通の大学生生活では出会うことのない、地域の人々と農業を通して繋がることができました。人の繋がりが希薄な現代社会において、一姓では地域の人々と繋がりを持つことができ、積極性を持ってたことが成長を感じる部分です。

中西悠

大学で得た植物や土壌の知識を実際の野菜作りで試すことで、物事を知識と経験から考えることができるようになった。うまく植物が育たなかった場合には、うまくいかなかった原因を考えて、いろいろなことを試してみた。一姓で学ぶことは自分のためになったと思う。

南川拓也

実際に畑での野菜作りを通じて地域の方々との交流を図ることによって、農業に携わっている年齢層の高齢化やコミュニケーションの希薄化といった問題を実感した。そうした問題を少しでも良い方向にもっていくため、自分達に出来ることを考察する力が身に付いたと感じる。

千坂文人

地域からのコメント

DELIVERABLE

成果物 / 制作物

共同で畑を借りられている方 加藤チカ子さん

BBQ やさつまいも掘りなど、地域住民との交流は非常に良いことだと思います。私も家で、こもりがちですが、学生と畑作業をすることが気晴らしになりますし、お年寄りと学生が交流することでお互いに得られるものもあります。学生は多忙な大学生活の合間を縫って畑作業を行い、よく頑張っていると思います。しかし、1日に10人程集まって作業するのも良いですが、2~3人のグループに分けて当番を決めることも大切でしょう。頻繁に畑をのぞきに来るだけでも近隣の住民と会話が生まれるし、学生が一生懸命作業をしている姿を見ると周りも元気づけられます。大学生活は忙しいと思いますが、これからも頑張ってください。

指導教員より

環境科学部 増田佳昭

今年度新たに県大協同ファームでの耕作もはじまって、活動の幅が広まったように思います。とくに、未来看護塾との連携による食育活動など、他団体との連携の動きが象徴的で、社会的な課題も視野に入れた活動となっていることに注目したいと思います。学生が野菜を作るというだけでなく、それを社会的に有意義な活動と結びつける視点を持つことは大変重要なことだと思います。次の年度も引き続き取り組みを期待したいと思います。

また、植えるだけのイベントでは人が集まらないとの反省もありますが、食べることに結びつけることも大事でしょう。「農」と同時に「食」も考えられる活動にすると幅が出て、また楽しいと思います。

09 おとくらプロジェクト



歴史ある高宮に新たな風を

築二百年を超える古民家と蔵が、学生の手によって、喫茶、ギャラリー、イベントスペースに生まれ変わりました。おとくらプロジェクトは歴史あるすばらしい街、高宮をより元気にすることを目的としています。

TEAM DATA

チーム名：おとくらプロジェクト

代表者：安本峻哉（人間文化学部）

メンバー数：11名

指導教員：奥貫隆、中西茂行（環境科学部）

活動場所：彦根市高宮町「座・楽庵」

関係団体：蝸牛会

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) 喫茶営業



喫茶営業 (7/24)

(2) インテリア改善

(3) コンサート・ライブ

★見出し写真：ライブ (9/18)



ギャラリー展示 (4/24)

活動の総括と提案（抜粋）

新入生や2回生の新しいメンバーが加わり、より一層活気の出た今年のおとくらでは以前にもまして積極的に活動をする事が出来た。掲げた目標には達成できたもの、できなかったものがあるがプロジェクト全体としては大きく前進できた1年だった。

ギャラリーでは学生や新しい作家さんの展示を行い、つながりの輪を広げることができた。また3月には自分たちの活動報告としておとくらの展示を行い、応援して下さる方々へ活動報告をする事が出来た。

年4回行ったコンサート・ライブでは少しでも快適に過ごしていただけるようサービスの工夫を重ね、お客さんに喜んでもらえるよう努力できた。またコンサートの広報活動でも大々的なポスティングやお店を回ってチラシを置いてもらうなどして充実も図ることができた。アマチュアや学生によるライブや出演の依頼を受けてのコンサート開催など新たな試みもあり今後の活動の進展につながった。

喫茶店の営業でも継続するだけでなく、新たなメニューの追加やメニュー Book の製作など積極的に活動を進めることができた。

活動体制については急激に増えたメンバーに戸惑いながらも試行錯誤しより良い活動になるようにと努力を重ねている。情報の交換・共有のためメールや Dropbox といったツールを活用しスムーズな運営を追及している。

先日、地元商工会の方から商工会の会議に参加してほしいと声を掛けていただいた。これは少しずつではあるがおとくらが着実に地域に根付いたものになりつつあることの証拠ではないだろうか。これを足掛かりに来年度以降も継続した活動によって、最終的な目標である地域の人々にとってのコミュニティスペースに近づけていきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

1年間代表として活動して、全体を把握して動くこと、メンバーをまとめることの難しさを体感しました。メンバーを思うようまとめられず悩むこともありました。しかし、それを助けてくれたのもメンバーのみみなでした。代表という立場の難しさと仲間の大切さを学ぶことのできた1年でした。 **安本峻哉**

精神力、鍛えられました。最初はネガティブで、珈琲を淹れることが怖かったです。不味いだろうな…と常に頭に交錯。そんな時に先輩から掛けられた言葉、“自信持って。お客さん不安になっちゃうから。” 染みしました。以来、努力をしています。より美味しく、より楽しい空間に。日々精進！ **中島響子**

広報担当の仕事を通じて、いかに多くの方に知ってもらえるかの工夫に日々悩んでいました。チラシのレイアウトで見やすさを追求したり、目を引くデザインを心がけました。メ切日までの予定管理や各担当・ギャラリー依頼者などへの連絡についての責任と編集能力が培われたと思います。 **下田翔平**

僕には大学生活において、ついていく立場でなく、自ら行動する、引っ張っていけるような人「リーダー」になりたいという大きな目標がある。口で言うのは簡単だが、おとくらプロジェクトでの活動を通してリーダーという立場の大変さを身に染みている。例えば、毎回のミーティングにしてもみんなの意見をまとめることはとても難しい。1年間を通して少しはリーダーとしてのスキルが身についたと思う。 **久保晃**

地域からのコメント

おとくら喫茶がある座・楽庵のオーナー **加藤義朗さん**

中西茂行（環境科学部）先生とまいた種「おとくらプロジェクト」初代表三橋恵さん2代目古橋香了さん3代目安本峻哉君のもと奥貫隆（地域づくり教育研究センター）先生をはじめ多くのみな様のお陰で芽を出し成長しております。本当にありがとうございます。年ごとに学生さんが変わろうとも、「おとくらプロジェクト」が高宮の地に新しい風を吹き続けてくれることを信じ期待しております。平成23年6月6日、安本君と高宮連合自治会（土の人の最高議決機関）の会合にアピールに行き、物怖じしない「若さのすばらしさ」を実感しました。これからも「風の人として」として「土の人」とともに成長しましょう。

指導教員より（抜粋）

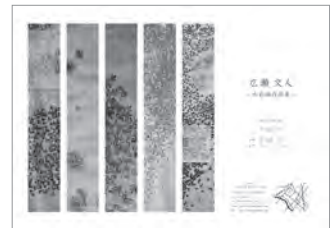
地域づくり教育研究センター **奥貫隆**

この一年、おとくらプロジェクトは、大きな進化を遂げました。

第一は、メンバーや関係者による情報交換や情報共有が進みました。レスポンスも早く、おとくらメンバーとして一人ひとりが自覚している様子が伝わってきました。第二は、イベントの充実です。4回のconcertは、レベルの高いものでした。ホンモノの演奏や展示を目指してこれからも努力してください。そうすれば、応援してくれるひとたちが必ず現れます。今年実現した「おうみおはなし会」や「詩の朗読会」などのように、蔵独特の空間を活かした企画を工夫して、支援者を増やす努力を重ねてください。第三は、ギャラリー企画で新しい作家の展示や学生展示などにチャレンジしたことです。出展者を囲みでのミーティングなど、活動をとおして得ることのできる体験を大切にしてほしいと考えます。

最後になりますが、日々、学生を励まし、厳しく、温かく指導してくれた加藤さん、中西先生に感謝します。

DELIVERABLE 成果物／制作物



10月ギャラリー
「広瀬文人の水彩画作品展」ポスター



おとくらポストカード



7/30 イベント「おはなしかい」ポスター



リサイクルキャンドルでスローな夜を

お寺の残燭からリサイクルキャンドルを作っています。キャンドルナイトや環境教育の一環として、子どもたち向けのキャンドル教室を開催。電気を消してキャンドルに火を灯すことで、癒しを感じるスローな夜を広めています。

TEAM DATA

チーム名：あかりんちゅ
 代表者：池山邑華（環境科学部）
 メンバー数：11名
 指導教員：近藤隆二郎（環境科学部）
 活動場所：大学、彦根市、近江八幡市、滋賀県内
 関係団体：ひこねキャンドルナイト実行委員会
 近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

- (1) リサイクルキャンドル商品開発・販売
- (2) 夏・秋湖風祭でのキャンドルナイト
- (3) 安土「信長の館」野外コンサートでのキャンドルナイト、ハンドベル演奏
- (4) ひこねキャンドルナイト2011への参加
- (5) 田の浦ファンクラブ「ほたてあかり」技術提供
- (6) 3.11つながろう東北へ
- (7) 出張キャンドル教室



キャンドル教室 東近江市「こども信行道場」(8/26)

- (8) 室内キャンドルナイト

★見出し写真：中庭キャンドルナイト@守山小児医療センター（1/27）



中庭キャンドルナイト 守山小児医療センター（1/27）

活動の総括と提案

今年はSプロジェクトとして、昨年度にも増し様々な依頼を受けて県内各地また、京都という県外を会場にしての活動に飛び回った。ラジオや新聞、テレビ等にもたくさん取り上げて頂いた。そうした中で、チーム名だけが独り歩きしてしまわないようにと、日々の活動をこれまで通り続け、経験を積むことができた。特にキャンドル教室については、チームワークを鍛える良い場になった。様々な状況を想定した念入りな段取りの大切さを毎回学ぶ繰り返して、大変なこともあったけれど、キャンドル作りを楽しんでくれる人達の顔を見ると嬉しくなり、各自で段々と動きを考え工夫し合えるようになった。

また、今年は「イベント会議」、「商品開発会議」と部門分けをし、会議を定期的に行なった。そうしたことで、情報伝達がしやすくなった。相手にわかりやすく情報を伝える能力も徐々に全員に備わってきた。

電気を消した「スローな夜」を家庭に広めることを目標とし、後半には大きな地域行事に関わる経験もできた。「ひこねキャンドルナイト2011」では実行委員として、また、「3.11つながろう東北へ」では地域の活動家の方や議員さん、店舗を持たれている人等々、様々な立場の人たちと共にイベントを企画、ストレートな意見交換がなされるなか、共に何かをする事の凄さや困難さを知り、当日はお互いが助け合っって充実した気持ちで一日を終えることができた。

最後に提案について、今期広がったネットワークを大切に大学生協だけでなく一般店舗で委託販売をさせてもらったり、キャンドルナイトをもっと自分たちで主催したり、ボランティアをしてもらったりと、今後のアクションに繋げていきたい。Sプロジェクトとして自立した活動を行っている団体のお手本になれるような活動にしていきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

近江楽座説明会の企画からは学生同士で連絡を取り合い企画を挙げていく力や地域とのイベントを通して、マナーや関わり方を学びました。さらに今季は近江楽士への参加で、より幅広い学科の学生に私達の裏の活動を知り、体感してもらう機会がありチームにとっても刺激になり、また活動ごとの感想をきいてモチベーションに繋がったと感じています。 **池山邑華**

キャンドルナイトや教室の依頼、イベント参加を通して、私が社会人になる前に少し社会に触れることができたと感じています。近江楽座は大学生の活動ですが、地域の方からの期待や信頼を求められている場での責任感が必要であると思いました。地域の方とのコミュニケーションが必要であったり、私たちは大学と社会の間の位置にあると思うからです。 **福川萌子**

今年度は夏休みを中心にキャンドル作り教室をたくさんさせていただきました。いつもバタバタしてしまい、もっと効率良いやり方を考えていかなければなあと思います。そして、もっとエコに、もっとプロになれるよう、キャンドルについて更なる勉強をしていきたいです。 **井上はづき**

今までのイベントでは常に先輩と一緒にだったのですが、今年度は自分が先輩となり、指示だしや依頼主との意見交換等をする機会が増え色々学びさせて頂けたと思っています。 **藤野愛津美**

地域からのコメント (抜粋)

「これからもあかりんちゅと浄土宗青年会で末永く関わっていきたい。」
(滋賀県浄土宗青年会の方)

「あかりんちゅは滋賀ではすっかり有名だね。」
(いろんな人達からかけられる声)

「日本ではまだ非常用とかパーティ用としての認識が強い蠟燭で、癒しやエコのための道具として広めていけるといいですね。」
(KBS 京都の方)

「あかりんちゅの活動を多くの人に知ってもらうことは大切であるが、活動をこつこつと継続していくことも大切だよ。」
(お寺でのキャンドル教室の主催者の方)

「また、リサイクルキャンドルを作ってみたい!お寺などから出ているという廃棄ろうそく存在を初めて知った。」
(キャンドル教室の参加者の方)

指導教員より (抜粋) 環境科学部 近藤隆二郎

3年目を迎え、知名度も上がっており、様々な依頼イベントや体験教室も増えてきて、メンバーの増強が課題になるほど。その勢いはとても評価できる。特に、依頼先と直接交渉および調整することができ、謝礼や実費請求といった関係もこなせるようになり、収支的にも安定して活動することができた。311キャンドルナイトへの協力やデザイン担当といったこと、田ノ浦ほたてあかりプロジェクトへの技術協力といった点でも広がりができてきている。残蠟からリサイクルキャンドルをつくるという点でのシンプルな広がりが共有されてきている。

一方で、初代メンバーが退くなかで、いかに今までのストックや築いてきたネットワークを引き継ぐかといった組織としての課題も見えてきている。楽しい活動を続けながらも、事業を受託するというプロの面とをどう両立していくかが大事な点でしょう。年度ごとの方針やテーマを決めてじっくりと取り組むという点もあってよいと思う。

DELIVERABLE 成果物/制作物



バレンタインフェア チラシ

11 Living design 15th FASHION SHOW



BORN

湖風祭のファッションショーに向けて、様々な衣装を製作、ショーの構成や広報まで、すべて学生が主体となって活動しています。今年度は滋賀の布産業や、地域の方々とより密着したファッションショーを目標にしています。

TEAM DATA

チーム名：生活デザイン学科 15 期生

代表者：西廣朝美（人間文化学部）

メンバー数：21 名

指導教員：森下あおい（人間文化学部）

活動場所：彦根市

関係団体：---

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) 石山夜市ワークショップ



石山ワークショップ

(2) 朴アート祭ファッションショー

(3) ビバシティファッションショー

(4) 湖風祭ファッションショー

★見出し写真：湖風祭ファッションショー（11/12）



衣装製作

(5) 最終パンフレット（スーパーパンフ）制作

活動の総括と提案（抜粋）

ファッションショーの第一の目的であり、最も大切に考え続けてきたことは“滋賀の布の発信”である。私たちはこのショーを通じて、滋賀の布について学び、学生が主体となって大きなものを作り上げる大変さ、そこからくる充実感と感動を得ることができた。ワークショップにおいては子どもを中心にたくさんの方々に楽しみながら滋賀の布の魅力を伝えていけたのではないかと考える。現在も継続して、ワークショップでたくさんの方々に作ってもらった作品を活かし、滋賀の布と地域の方々の想いが詰まった作品の制作を行っている。

達成できなかったことや改善すべき点も少なからずあった。一年間の活動を通して感じたこととその改善に向けた提案を述べたい。

①繊維企業の方々に布を頂き、それを私たちが発信していくだけでなく、これまでにない方法で還元していく。たとえば、ショー終了後、頂いた布で作った服を繊維企業で飾っていただく等。

②ショーを行う年間のタイムスケジュールや役割分担をしっかりと決め、それぞれが自分の役割を把握し、精一杯努める。

③三回生全体会議を頻繁に行う。リーダーだけで話合っただけで全てを決めるのではなく、全体で定期的に会議を行い、意見や提案を共有する。

④ワークショップの充実。石山商店街でのワークショップでは、たくさんの方々と交流することができた。しかし、もっと多くの場所でもっと多くの時間、ワークショップの場を設け、滋賀の布の発信を行いたいと感じた。また徐々に衣装が出来上がる後半にもワークショップを行うことで、実際に制作した衣装に触れてもらいながら、滋賀の布に触れる機会をもってもらいたいと感じた。

スキルアップ - メンバーの所見 -

今回のファッションショーで繊維企業の方々と関わらせていただくまで知ることのなかった、たくさんの作り手の方々の布に対する想いや、その想いによって丁寧に作られる一枚一枚の布の魅力に触れることができ、本当に勉強になる時間を過ごせたと思います。

松岡幸

生活デザインの学生として、ただ作品としての衣服を作るのではなく、繊維企業さんやイベント会社さんをはじめ、10人以上の関係者と作り上げるショーによって多くの人に観てもらい、「よかった」と言ってもらえたことが一番の収穫でした。

西廣朝美

滋賀の学生であるのに、こんなに素晴らしい織物産地が滋賀にあることを今まで知りませんでした。この活動を通して産地のことを知ることができ、地域の方と関わりをもつことができ本当に良い経験となりました。

布施遥香

大勢の方々の前で何か一つ成し遂げることをの大変さを学びました。しかし、その為に皆で協力し、苦難を乗り越え、最後に得た感動は素晴らしいものだということも実感しました。

稲生香織

地域からのコメント (抜粋)

ファブリカ村 北川陽子さん

学生と布を提供する企業の関係がもう少し密着して活動できたらいいかな、と思います。最終的にショーで制作した衣装を企業に提供したり、さらにその後のビジネスにつながるような活動があってもいいかな。また、ショー終了後も企業の方々とともにショーを見る機会を作ったり、活動を振り返りながら一緒に反省会を行ったりと、最後まで学生と企業が手を組んでプロジェクトを行えたらなおいいと思います。

提供してもらった布を、制作時には柄や色だけで選んで使用せずに、繊維の特徴や作り手の想いを知り、それを活かした意味のある服を制作してほしいです。

今後はこれまでよりもさらに一歩進んだ活動、企業と連携的に行うことを目指して欲しいです。期待しています。

指導教員より (抜粋) 人間文化学部 森下あおい

今年は、堅実で丁寧な物作りを目指した1年間であった。しっかりとデザインと制作は、秋のファッションショーではショーの演出が工夫され、見応えのあるショーとなった。石山の商店街をはじめとする活動では、試行錯誤の中で繊維の特徴などを判りやすく伝えるよう、パネルの制作や異なる種類の布展示などの工夫が行われた。

反省点としては、コミュニケーションが不足し、結果的に広報がやや弱く、作業量に偏りができた。是非、総括で述べられていた具体的な提案を、次年度の学生へ誠実に伝え行って欲しい。作品の素材を提供していただく企業に対しては、新しいデザインへどう可能性を開いていくのかを、双方向の関係を築き取り組んでいくことが必要だろう。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



ファッションショー フライヤー



スーパーパンフ



地域の埋もれた魅力を掘り出し磨く

近江八幡市を拠点に、地域資産を掘り出すことを目的に活動しています。市民と協力し、地域の良さを引き出し、盛り上げることが目標です。市民・地域と活動を結びつけるシステム・拠点づくりにも取り組んでいます。

TEAM DATA

チーム名：DIG'S

代表者：出口拓磨（環境科学研究科）

メンバー数：21名

指導教員：柴田いづみ（環境科学部）

活動場所：近江八幡市

関係団体：近江八幡市おやし連、ボードレス・ミュージアム NO-MA 友の会

近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22**

PROJECT

実施事業

- (1) 前田邸バラ園ワークショップ
- (2) 活動拠点整備
- (3) 八幡堀祭りイベント企画



八幡堀祭りキリコ作業風景 (9/17)

- (4) まち歩きワークショップ



まち歩き発表 (12/18)

★見出し写真：クリスマスパーティー準備 (11/27)

活動の総括と提案

今年度の DIG'S では2つのキーワードを挙げて活動に取り組んだ。1つは DIG'S 独自のイベントの企画である。前年度までの DIG'S の活動では、2009 年のヴォーリズ展や 2010 年の COP10 など、近江八幡で行われるイベントに乗じる形での活動が多かったが、今年度はそうした特別なイベントがなかったためである。そこで私たちが取り組んだのが、「ほっこり私のまち歩き」と題した計3回のワークショップである。このイベントではこれまでの活動を通じて関係をつくってきた近江八幡の市民団体などの協力を得て企画・運営を行った。今までのイベント企画のノウハウや、地域の協力を得て充実したワークショップを行うことができ、今後も独自のイベントを企画していく可能性を感じた。

2つめは地域に根ざした活動を行うということであり、定期的なカフェの営業や貸しスペース業務の充実、拠点とする町家の周辺地域との関係をつくっていくことなどを目的とした。定期的なカフェの営業については新規メンバーが増えたこともあり、ほぼすべての土曜日に営業を行うことができた。現在はメニューの充実などを目指している。貸しスペース業務については、利用者に対するヒアリングをもとに利用規約を作成し、これまで試験的であった業務の基盤をつくっていくことを目指した。今後は業務についての広報等を充実させていく予定である。

スキルアップ - メンバーの所見 -

1年間の活動を通して、まち歩きなどのワークショップを企画・実行するには、さまざまな人の協力が必要であるということを知った。一つ企画を成功させるため、何回もミーティングを重ね、地域貢献に繋がりが子どもたちにも興味を持ってもらえるようなワークショップを、メンバー全員で作ることができた。 **杉野仁美**

私は地域実践学実習での楽座インターンを通じてDIG'Sに興味を持ち、加入させていただき、メンバーとして活動するようになりました。まちに入って活動することやメンバーと一緒に意見をまとめ行動を共にすることの困難さを知る場に自分が居させてもらえるありがたみを日々感じております。 **梶友里絵**

ワークショップを通じてまち並みから近江八幡の良さに気付けた。そして、もっと知りたい気持ちになった。ワークショップでは子どもたちだけでなくお母さん方にも参加して頂き、私たちの活動に興味を持ってもらった。これからはもっと地域の人と濃く関わっていき、近江八幡を探っていきたいと思う。

中本梨紗子

活動を通して、DIG'Sはまちの魅力について地域の人と外部の人の双方に発信できる可能性があると感じています。それは、学生が第三者の立場から地域に関わることができるゆえです。地域の支えも大きくありますが、それでもこの活動が学生の立場を生かすことができるものであり続けたいと思います。

寺尾光紀

地域からのコメント (抜粋)

NPO 法人 近江八幡市中間支援センター 鈴木則子さん

きりこワークショップで大変お世話になりました。みなさん大変素直で、熱心に活動されていることに驚きました。DIG'Sに飾ってある、近江八幡の立体マップ(?)は、建築科という強みを生かした素晴らしいアイデアだと感じました。ぜひ今後も生かしてください。カフェの営業がちょっとわかりづらいのがもったいないと思っているので、今後もっとお客さんが増える様になると嬉しいと感じています。来年度以降も近江八幡を盛り上げていってもらえてたら、嬉しいです。

同 町元亮さん

もっと近江八幡を好きになる子を増やしてほしいです。例えば、市内のまちづくり協議会とコラボして子育て事業に参加し、子どもたちに近江八幡の良さ、自然についてなど、様々な視点から学べる環境を作ってあげてほしいです。

指導教員より (抜粋) 環境科学部 柴田いづみ

まちの継承者としての子ども達とのワークショップや、識者を招いての「リレートーク」は、学生メンバーにとっても、地域資産を理解するよい機会だったと思います。親御さん達との連絡、紹介した講師達との連絡もふくめ、学生達も運営をしっかりとくれました。地域の方々にDIG'Sを知ってもらいたい、地元の方々と一緒に活動したいという情熱が大きな原動力だったと思います。それらが、キリコや「いわき冒険映画祭」に繋がっていると思います。来年への課題は、もっと1、2年生と上級生の交流を密に活動し、地元の子供達との連携を継続していく事だと思います。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



活動紹介冊子



八幡堀祭チラシ

13 内湖の侵略的外来生物駆除



みんなで守ろう！地域の水辺

琵琶湖という身近な水辺で起きている外来種問題について考え、問題解決に向けて活動しています。琵琶湖の内湖の一つである神上沼の水辺環境を守るべく、侵略的外来種の駆除活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名： 県大 BASSER'S

代表者： 曾我部共生（環境科学部）

メンバー数： 17名

指導教員： 野間直彦（環境科学部）

活動場所： 彦根市（神上沼）、滋賀県内

関係団体： 彦根市産業部農林水産課

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

- 彦根市神上沼における侵略的外来種（ブラックバス、ブルーギル、ナガエツルノゲイトウ）の駆除

★見出し写真：駆除釣り大会集合写真（10/8）



ナガエツルノゲイトウ駆除（11/6）

- 月に一度の外来種に関する勉強会
- 最先端の駆除手法の実践
- 他団体との共同駆除活動
- 外来種問題に関するシンポジウムへの参加



湖風祭ミニ水族館（11/12）

活動の総括と提案（抜粋）

1年間の活動を通して、侵略的外来種の駆除、勉強会、シンポジウムへの参加、駆除釣り大会の実施、他団体との共同駆除活動、最新の駆除法の実践などを行なった。

外来種の駆除では、神上沼で月2回、外来魚の駆除、不飲川で年2回、ナガエツルノゲイトウの駆除を行なった。神上沼では、在来魚のモニタリングも行なった。不飲川における駆除活動は、地域住民、地域企業の方々と共同で行なった。鎌で根を掘り起こすなど力仕事であるので、我々の若い力が役立ったと考える。

神上沼での駆除釣り大会は自主開催で、2回行なった。地域の小学生から年配の方まで幅広い年齢層の方の参加があったが、参加者数は2回合わせて19名と少なかった。来年度は広報の仕方などを再考し、臨みたい。

他団体との活動では、滋賀県の琵琶湖レジャー対策室主催の駆除釣り大会に、補助員という立場で参加し、会場の設営や巡回指導行なった。

最新の駆除法の実践として、学内の環濠、および小琵琶湖において人工産卵床を用いた駆除を行なった。9基設置したところ、小琵琶湖に設置した6基のうちの2基にオオクチバスが産卵した。しかし、環濠においては、管理がおろそかになってしまい藻だらけになってしまった。来年からは管理体制を見直す必要があると考えている。

地域の水辺での駆除活動は地域の人々の協力なしには進められない。直接一緒に活動をするだけでなく、駆除活動を行ないやすい体制作りをしていただくなど、外来種問題への意識を持って支援をしていただき、間接的に地域と共に活動を進められたと感じている。1年間の神上沼での活動を通して、県大 BASSER'S と地域との関係性も深まり、地域から認められるようになってきたと感じる。これからも地域と共に地元の水辺を守っていきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

駆除釣り大会から、年齢に応じた対応の仕方（子ども、年配の方での対応の違いなど）を学ぶことができ、意思を伝えることの難しさを実感した。また、駆除釣り大会から、イベントの運営体制を学ぶことができた。さらに、地域の方と協力することで、大きなことができると学んだ。

小島翼

活動場所には予想していたよりも外来魚であるブラックバスやブルーギルが生息しており、駆除の必要性を感じた。また、ブラックバスやブルーギルを効率的に駆除する方法について学ぶことができた。さらに、外来魚講演会を通して、生物多様性は自然の遺産であるということを変更して考えさせられた。

片岡寛大

団体を設立するにあたって、行政や自治体、企業、また多くの専門家の方々の協力を得てきた。行政や自治会とのやりとりの中で社会での人間関係の作り方を学んだ。また、団体として学生をまとめていく力も少しは身についたと感じる。

曾我部共生

活動に参加した当初、私は侵略的外来生物やその駆除方法について、ほとんど知識がありませんでした。しかし、神上沼での定期的な駆除活動に加え、勉強会や外来魚情報交換会に参加したことで、今まで知らなかった琵琶湖の生物たちや、それらの抱える問題について、どんどん知識が入ってくることを感じました。

三橋俊介

地域からのコメント (抜粋)

聖皇大学 H.S.J 企画 CLC セミナー実行委員 北川晃浩さん

セミナーで外来魚問題についての講座を開いていただきました。講義の内容はわかりやすく、クイズもあり、様々な人を楽しんでいただきました。このように他の大学と連携することによって生まれるものは素晴らしいものがあると思います。

薩摩町自治会長 村井光雄さん

神上沼は外来種が多いところで、駆除活動が大変です。そうしたところに、若い力が入ってきてくれて協力体制が出来上がってきて良いと思います。また、長年ゴミが流れて来ていて浅くなっています。滋賀県立大学の学生さんがそうした掃除などをしてきている、また沼を観察してくれていると思います。これからはいわゆる「池のメンテナンス」という役割を地域と一緒に担って欲しいです。

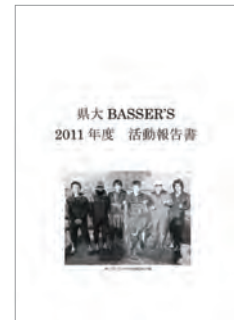
指導教員より (抜粋)

環境科学部 野間直彦

今年度の駆除活動は十分な成果を上げたと高く評価できる。データもかなり取ることができ、今後の効果検証にも活かせる形になっているといえよう。それらの取り組みが市民の協力も引き寄せる結果になった。ただ、活動が持続的に広がっていくくみを作るには至らなかった。活動の知名度も浸透しているとは言い難い。これらは、発信力の不足による部分が大いと思われる。地道に広報を続ける（やっていることに見合う発信をする）ことが第一の課題となるだろう。それによって学生の多くが活動を知っている状態になれば、バスの放流は犯罪であることも理解され、活動に参加する学生・市民が増えることに繋がると考えられる。また仕事の分担もうまくやってほしい。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



活動報告書



BASSER'S 通信全 13 号

14 いかにして民家？



古民家に来てみんな？

古民家などの伝統的建造物を再評価、その保存・活用方法を模索しています。古民家の公開イベントや、茅葺き民家の資料館再開に向けての資料の展示・整理を行い、古民家の魅力を発信、再発見のきっかけ作りの活動を行なっています。

TEAM DATA

チーム名：古民家楽座

代表者：布施春菜（人間文化学部）

メンバー数：16名

指導教員：濱崎一志、石川慎治（人間文化学部）

活動場所：彦根市、高島市白谷

関係団体：NPO 法人 Links

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) ミーティング



七曲がり会議 (11/10)

(2) 七曲がりまちあるきイベント

★見出し写真：七曲り (11/26)

(3) 白谷荘民俗資料館



白谷調査 (7/23)

(4) 金堂まちあるきイベント

(5) 河原町・芹町地区伝統的建造物群まち歩きイベント

(6) 長浜・摺墨

活動の総括と提案（抜粋）

活動を振り返って、広報活動が不十分であったり、勉強不足、準備不足などの反省点があげられた。スケジュール管理がきちんとできていなかったことが要因の一つと考えられる。来年度は1年のスケジュールをしっかりと考えて、計画通りに進められるようにしたい。

当初計画では、情報発信にも力を入れるとしていたが、ブログの更新のみにとどまってしまった。今後は古民家の魅力を伝えるHPやパンフレットなどを作って、地域住民や観光客に配布し、より多くの人々に活動を知ってもらいたい。

今年度最も力を入れたのが七曲がりのまちあるきイベントだったが、まだ地域全体の方に参加していただけてはいない。古民家について興味を持ってもらえるように、そして古民家保存に対する理解を深めてもらえるように、もっと広報活動をしたり、直接地域の方にコミュニケーションをとったりしていれば、参加者が増えていただろうと思う。この反省をふまえて、今後積極的に地域の方とのコミュニケーションを図っていきたい。自分が住んでいる地域の古い町並みなど、普段何とも思っていない場所でも残していく価値があるということを知ってもらい、地域の方のその興味・関心が地域活性化につながっていければと思う。

私達の活動は、古民家楽座という名前のあることもあり、古民家のみを重点に置いて活動していると思われやすいが、毎年活動を続けてきて、地域の方との交流にも重要性を感じている。家のことだけでなく、その地域の人々の生活や暮らしの部分にも目を向けることで、よりその地域のことを知ることができると思う。今後も地域の方との交流に、より力を入れて活動していきたいと思う。

スキルアップ - メンバーの所見 -

白谷荘民俗資料館での民具調査において、民具をよく観察する力や寸法を測って描く力を身につけることができました。民具の名称や用途を調査していく中で学び、昔の道具に触れる良い機会となりました。調査を通して、古いものに対する意識が高まり、昔の生活を記録しておく必要性を感じました。

石村友樹子

町あるきイベントで古民家の説明をする機会がありましたが、勉強不足でほとんど説明することができませんでした。そこからさらに古民家について勉強しなければいけないことに気づき、次のイベントに向けて古民家について説明力をつける努力が必要だと学びました。

田郷綾菜

夏休みに白谷荘民俗資料館で合宿を行いました。合宿では主に資料館の清掃を行いました。私はおもに3階を掃除したのですが、柱にすがすがびりついていて、綺麗に落とすのに苦労しました。何回も磨くと元の素材が見えてきました。最後には清掃前とはくらべものにならないほど綺麗になり、達成感を得ました。何事もあきらめずに取り組むことが大切だと思いました。

山口愛

地域からのコメント

DELIVERABLE

成果物 / 制作物

七曲の仏壇店、イベント参加者 奥田新悟さん

今日は村岸家でお世話になりました。古民家活用の取り組み、興味深かったです。街歩きイベントのおかげで、子どもたちとか、普段歩いてる姿を見かけない人々を引き付けることができたので良かったと思います。古い街並みの散策はまた単独でも開催し欲しいなと思います。

指導教員より (抜粋) 人間文化学部 濱崎一志

古民家楽座はもともと特定の地域を対象としてではなく、広域的に活動していることもあり、それぞれの地域との関係が他のチームに比べて少し弱い印象がある。そのためか、イベント等の準備や当日運営において苦労した部分があったとのことであるが、古民家を通して地域の方々に地元の良さを再発見してもらうという活動の目的は達成できたのではないかと。今後は、広域的に活動してきたこれまでの実績などをもとにしながら、関わりを持つ地域同士が協力・連携しながら広域的に地元の魅力を発信していくような試みなども考えていってほしいと思う。また、現在のコアメンバーは来年度も在籍しているので、今年度の感想や反省を踏まえながら後輩たちへの助言・サポート等を期待したい。

15 SenS – “縁”側でつながる人の“縁” –



集落と学生をつなぐ古民家改修

下石寺にある空き民家「エコ民家3号館母屋」を改修し、集落住民が気軽に立ち寄れる場として活用します。今年度は調査、改修、活用プログラムの提案を行い、集落の活性化、集落と県大のより深い繋がり創出を目指し活動しました。

TEAM DATA

チーム名：SenS
代表者：水井歩（環境科学部）
メンバー数：7名
指導教員：鶴飼修（全学共通教育推進機構）
活動場所：彦根市石寺町
関係団体：下石寺自治会町づくり委員会
近江楽座活動年度：(H16) (H17) (H18) (H19) (H20) (H21) (H22)

PROJECT

実施事業

- 1) 古民家改修ワークショップ
★見出し写真：古民家改修ワークショップ(10/10)
- 2) 古民家再生・活用フォーラム
- 3) まちあるき・オープンハウス
- 4) 凧づくりワークショップ



凧作りワークショップ(12/28)



太鼓登山(4/17)

活動の総括と提案

今年からの近江楽座の新規プロジェクトとして活動し、メンバーも楽座に始めて参加したり、始めて古民家改修に携わったり、運営面や技術面で不慣れな点が大きかった。当初の計画通りの活動は行われたが、計画や事前準備に手間取り、円滑に進行できなかったときもあった。

しかし多くの方の協力により大きな失敗や事故なく一年間プロジェクトをやり遂げることができた。近江環人のネットワークで、建築士の方には設計や改修の際にアドバイスをいただき、積極的にプロジェクトに参加していただいた。地域の方が何事も快く受け入れてくれ、私たちの活動に気にかけてくれて支えてくれた。またワークショップやフォーラムなどを通して他大学の学生や他の近江楽座プロジェクトの学生との交流できた。そしてなにより学科や学年を超えてメンバーが何度も話し合い、協力して古民家の改修をやり遂げることができた。このように人と出会い繋がりが生まれたことが一番大きな財産だと思う。

とはいえまだまだ課題は多く、予算の使い方や管理、広報の方法、スケジュール調整など基本的なことができていなかったように思える。これからは改修した古民家を、地域にどのように還元して活かしていくかを考えることが私たちの課題であると思う。

スキルアップ - メンバーの所見 -

初めて下石寺のイベントに参加したのは太鼓登山でした。集落に住む子どもたちからお年寄りまで、みんなが集まって楽しむ祭りにすごく感動し、この集落のまちづくりの原動力は、住民の皆さんの結束力や町への思い入れの強さが根底にあり、それがまちづくり活動にとって重要なのだと感じました。 **長瀬理恵**

一年間の活動を通じ、古民家改修を行っていく上で調査、視察、計画などのさまざまな段階を踏んでようやく実施するという一つの事を成す大変さを実感した。地域と接していくことで人とかかわる上で必要な社交性やイベントを成功させるための計画力を身につけることができた。 **佐藤佑樹**

この一年で最も印象深いのは古民家改修事業です。改修に関する知識が殆どない中、専門の方や地域住民に教わりながら作業をしました。失敗しながらも、徐々に完成していきました。学生の力だけではあり得ませんでした。様々な人とのつながりがあって初めて、私達の活動も生きてくるのだと実感しました。 **高口美夏**

集落の方々との交流を通して、協力し合う強さを学びました。SenS のプロジェクトを推進するに当たり、活動の場となる下石寺集落の方々との理解と協力はとても重要でした。古民家改修やイベントの実施にあたって、集落の方が積極的に協力をしてくださり、理解の深さを感じました。おかげで良い活動をすることができ、自分の成長を実感しました。 **丹羽亮太**

地域からのコメント (抜粋)

下石寺町自治会町づくり委員会 西川時男さん

コミュニティセンターづくりが以前からの懸案事項でした。今回、県立大学より学生が集落ステイしている古民家の母屋を当センターに改修する提案があり、町づくり委員会と共同で実施することができました。実施に際しては、調査・設計・改修等、県立大学が主体的に行っていただき、立派なコミュニティセンターが完成し、大変喜んでいく次第です。活用方法は、①住民が気軽に立ち寄り、語り合うことができる憩いの場とする。②高齢者と子どもたちの世代間交流の場とする。③地域住民と県立大学生との交流の場とする。④これらを通じて、人と人とのつながりの醸成や子どもたちの健全育成等を図り、地域の活性化に繋げていく。等を考えています。運用基準等を作りながら逐次実施していきたいと考えています。

指導教員より (抜粋) 全学共通教育推進機構 鵜飼修

下石寺集落は、これまでの大学との関係から、学生活動に対する「期待」と「理解」を有した集落です。今回の活動においても、町づくり委員会の方々を中心に多くの住民の方々に協力をいただき、完遂することができました。これは、集落の方々や仲良くなるとうとする取り組みや、アンケート調査で集落の方々からの要望を聞いて空間づくりを行うなど、メンバーの「真摯な態度」の成果であると感じを持って良いでしょう。一方で、段取りや連絡不足については、学生としての甘えもあり社会人としての常識に欠けるところもみうけられました。今回の活動を踏まえて、自身の活動がどのような「つながり」で成立しているのかを客観的に見て、いっそう真摯な行動ができるようになることを期待します。

DELIVERABLE 成果物 / 制作物



活動紹介冊子



11/19 古民家再生・活用フォーラムチラシ

16 Taga-Town-Project



“多賀”を発見・発信

多賀というフィールドで学生の目線から見たまちの新たな魅力を発見、発信していくことを目的に活動しています。昨年度に改修を行った拠点を活用し、より密接に関わりを深め、新たな多賀を発見、図鑑により広めています。

TEAM DATA

チーム名：Taga-Town-Project
代表者：藤原舞子（環境科学部）
メンバー数：18名
指導教員：松岡拓公雄（環境科学部）、山根周（人間文化学部）
活動場所：犬上郡多賀町
関係団体：有限会社 A.SITE
近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22**

PROJECT

実施事業

- (1) 多賀暮らし図鑑プロジェクト
★見出し写真：北川さんインタビュー（10/22）
- (2) 色人プロジェクト
- (3) 八百秀アパートプロジェクト



八百秀改修 ペンキ塗り（10/15）

- (4) ホームページプロジェクト
- (5) たがのぞき探偵団プロジェクト



まち歩き（1/28）

活動の総括と提案（抜粋）

行動が多い年となった。やりたいからやる、というシンプルさが活動に出て良かったが行き当たりばったりになって、計画的に組めていなかった。その結果、運営をする段階まで活動を進めることが出来ず、プロジェクト全体に遅れを生じさせた。当初の計画と照らし合わせて遅れている部分を明白にし、対処していく必要がある。

プロジェクトの体系として八百秀党、図鑑党に分かれて進めることが出来、TTPの活動内容自体に方向性が見えてきた。多賀暮らし図鑑と八百秀アパート201はソフトとハードの関係性として成り立つようになった。

一箱古本市を八百秀201で開き、そこで出会った方にインタビューをすることになり、交流を深めることが出来た。またたくさんの人と知り合えた。自分たちの活動を通して人とのつながりができていることをメンバー全員が実感できていた。これからそういった人とのつながりや、人と知り合うことで新しい発見や感動を実感して広げていけるような活動をしていきたい。

そのためにも、まちに入り行動していくことが必要である。何のためにその場所で活動しているのか、やりたいことは何なのか考えながら行動し、活動を発信していきたい。

外部に発信していく手段として図鑑と八百秀だけでは限られているように思う。来年度からの提案として、チーム内に広報部を作るべきである。広報部では、フライヤー・ブログ・ホームページ・有線放送の進捗を安定させ、TTPの活動が外部へもっと伝わることを目標とする。今年2月から、月に一度、少しの時間だが多賀有線放送の番組枠をいただいた。まちの方により多くの機会を知っていただきたいので、来年度からは有効に使ってきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

チームでお世話になっている人に誘っていただいたイベントで、普段は接することの少ない世代の人たちとお話することが出来ました。その後、偶然に彦根で再会した時に笑顔で声をかけてもらえたことがとても嬉しかったです。人とのつながりの大切さや、そこからの活動の広がりを実感できた年でした。

上原佳那子

活動について客観的な意見を取り入れることの重要性を学んだ。今年度は初対面の町民の方のような、普段はあまり接点のない方からTTPについて客観的に評価した意見を得る機会が多かった。それらを基に、自分達とは異なる視点から活動を振り返ることで、プロジェクトのより良い改善を行う事が出来た。

平尾新

町の方との積極的な交流を心がけた。もんぜん亭に足を運び出会った方と会話をすることで、町の方が多賀町をどう思っているか、学生の存在をどう考えているのか知ることができた。様々な人と話すことで話し手の意図を汲み取るような聞き方を学び、インタビューの内容をより充実させることができた。鎌倉千穂

地域からのコメント 有限会社 A.SITE 平居晋さん

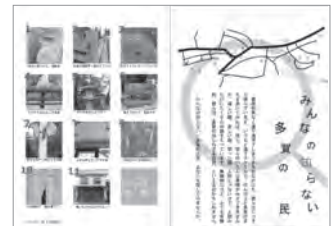
TTPのyaohide apという多賀の絵馬通りのはずれにあるアパート改修プロジェクトへの参加は、社会人を含むプロジェクトメンバーのモチベーションの維持にも一役買ってくれています。「古本市」への取り組みもその運営だけではなく、有線放送など地域のメディアに積極的に関わり、そこからの情報発信を試みています。地域で活動している住民の皆さんとのコミュニケーションなど、今後の展開の基盤づくりとして期待できると思います。多賀のまちなかでの存在感を失わないように、地域の方々と関わっていく活動をぜひとも継続してください。

指導教員より (抜粋) 環境科学部 松岡拓公雄

昨年に引き続き、古例大祭と万灯祭に参加、万灯祭とふるさと楽市では毎年出店などをし、祭り以外でもまちの企画の手伝いをし、多賀に溶け込んできた。その他、八百秀アパートの改修と一箱古本市も進めたが、計画通りには、いかなかったようである。「多賀暮らし図鑑」もタイムリーな発行をするという目標があったようだが、そのために「多賀のぞき探偵団」というコラムや多賀探記事も進行させるなど工夫が見られた。また、多賀有線放送で毎月5分だけTTPの番組枠をもらったことはひとつの成果だろう。

活動が惰性にならないように、常に地域へなにかしら刺激を与えながら、まちづくりの潤滑剤になるのも良いが、ひとつの顔になる事、多賀の名物になる事も、これからも続けて行く方法かもしれない。今までの活動を一度総括して、次の活動を展開してほしい。

DELIVERABLE 成果物 / 制作物



「たがのぞき探偵団」記事本文ページ



11/20 古本市チラシ

17 信・楽・人 -shigaraki field gallery project-



まちの魅力をあぶりだす

歴史深く、陶器の産地として発展してきた信楽の魅力を再発見、発信していくことを目的に活動しています。今年度は、まちのイベントと連動し、プロジェクトで改修してきたギャラリーなど2拠点で**同時企画展**を行いました。

TEAM DATA

チーム名：信・楽・人 -shigaraki field gallery project-
代表者：盛千嘉（環境科学部）
メンバー数：12名
指導教員：印南比呂志（人間文化学部）
活動場所：甲賀市信楽町長野
関係団体：明山陶業株式会社
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) 登り窯改装

★見出し写真：Ogama 商品を飾る小箱作り (7/31)



Ogama しきり作り (7/23)

(2) 朝鮮通信使献上食器の調査研究

(3) Ogama× shiroiro-ie 企画展

(4) TEIBAN ジャパンクラシコ 奈良展 作業補助

(5) 窯元散策路 サイン計画



おかみさん会×信楽人散策路サイン会議 (10/22)

(6) ここらし展示会

活動の総括と提案

毎年、人手不足を抱えながらも、少人数で様々な活動が行えたり、プロの職人の作業風景を見ることで得られた知識があった。また、今年度は、信楽という町にプロジェクトメンバーの一人が常駐するという、より地域とのつながりがうまれたことで、学生と地域の人たちとがより近いところで意見の共有をすることができた。

しかしながら、そういった活動をサポートする面（金銭面や学内への呼びかけなど）が力不足であったことは否めない。そして、もともと自分達の活動としてアトリ改装作業を計画していたものの、これを業者へと途中変更することとなったのには、もっと、計画時に自分たちが本当にできる範囲を把握し、計画、実行へと移していかなければならない。また、チーム内での意見共有をミーティングなどによって活発に行っていかなければならない。

スキルアップ - メンバーの所見 -

現場の作業をするにあたり、スピード性や力が必要であると改めて気づかされた。また、以前学んだ造園の知識が、緑を使って建築やその周辺空間とのつながりや調和などをつくりあげる手助けとなった。

長晃子

地域の方と話し合う機会があり、そのときに地域の方がどれほど地域外からの意見を必要としているか初めて知った。同じ学科の学生や先生と話し合うのではなく、まったく分野の違う世界の人と話し合うことの難しさを学んだ。

鈴木緑

後継者問題について、院生と違い実力のない二回生の私にとって、仲間とこまめにミーティングし、意思疎通をし、協力して活動していく事が大切だと学んだ。これからは、ミーティングをし、仲間とコミュニケーションをとりながら楽しく活動していきたい。

西出彩

地域からのコメント

明山窯 石野伸也さん

DELIVERABLE

成果物 / 制作物

昨年度に続き、主に改装や窯元散策路サイン計画に携わって頂いた。お陰さまで散策路も年々来場者が増え、それに伴い問題点も出てきた。その改善に取り組む上で、あらゆる調査を行って頂き、非常に参考になった。信楽人に協力して頂ける事は心強いと感じている。

しがらきが信楽人に協力を頂いてから5年が経過した。当初から地元の間人だけでは行動しにくいところがあったが外部から継続して携わって頂けることで、まちにもまとまり感が出てきたように思う。

指導教員より

人間文化学部 印南比呂志

信楽人では、これまで2カ所の窯元の地域拠点づくりに関わってきた。ここでの活動は現役の学生のみならず引き継いで来た学生たちが卒業後も連携して継続している。地域との関わりが程よいスタンスで繋がっている。まちづくりイベント、地域産業再生のための場づくり、製品開発など次々と新たな活動目標が生まれている。それらは一種の地域コンサルティングのような専門性を持ち始めている。

今年は活動の中心を担ってきた学生は信楽というフィールドを卒業研究のテーマとして取り上げ高い評価をうけた。そして信楽に就職の場を見つけた。卒業後はこの活動を社会人としてサポートしてくれることを期待している。

18 七曲りでいっちょやったるか！



モットーは楽しく面白く！

仏壇や仏壇職人さんの仕事を多くの人に伝えようと「ゆうたとお仏壇」という紙芝居をつくり、読み聞かせをしてきました。今年、仏壇職人さんの仕事場である七曲りのことを知ってもらうため、イベントの企画運営とパンフレットを製作しました。

TEAM DATA

チーム名：ななちょ！

代表者：村田悠喜（人間文化学部）

メンバー数：6名

指導教員：黒田末壽（人間文化学部）

活動場所：彦根市

関係団体：NPO 法人 Links

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) 読み聞かせ

★見出し写真：ひこねば 2011 市民活動まつり (11/19)

(2) 紙芝居改善

(3) パンフレット制作



七曲り金箔押師さんへの聞き取り (6/21)

(4) 七曲り一日ウォーク



七曲りイベント (11/26)

活動の総括と提案（抜粋）

今年度は、七曲り地区の観光推進のために、七曲りの地図を載せたパンフレット「ななマップ!」の制作と、11月に行われたイベント「そうだ!七曲りに行こう」を中心に行った。パンフレットは昨年未から取り組み、七曲りを何度も訪れ、七曲りの名所を探し、また仏壇職人の方に聞き取りを行った。そのなかで新たに七曲りの魅力をいくつも発見することができ、それらをパンフレットに盛り込んで、満足のいくものが出来た。

イベントで意見を聞き、手直してからパンフレットを印刷することにしたため、今まで以上に七曲りの方々と話ができて、交流が持てたという点と、皆が納得できるパンフレットに仕上げることができたという点において、良い結果になった。しかしその分、時間を取られ、予定していた紙芝居の改善や読み聞かせが十分に出来なかった。11月に唯一行なえた紙芝居の読み聞かせでは、熱心に紙芝居を見てくださり、私たちのブースに足を運び、お話を聞いてくださる方もおり、紙芝居の読み聞かせという活動の意味を再確認することができた。

イベントでは、企画会議に参加し、主催者や関係者と何度も会議を重ねたことで、関連団体以外の方とも交流を持つことができた。私たちは、制作したパンフレットを用い、七曲りの数箇所に設置したスタンプをあつめてもらうという、「スタンプラリー」を計画した。

今年度は、何とかパンフレット完成とイベントの成功にこぎつけることができた。一方、私たちの活動の大きな柱である読み聞かせを充分に行なえなかったことなど、反省点は多々あった。来年度はこれら反省点を改善し、より一層七曲りについて多くの人が知っていただけるように、活動していきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

地域の人や、NPOさんと関わりをもつことが多かったので、その方々との知り合い、話し合え、そのときの電話やメールのマナーや作法を勉強することもできた。また、大勢の人前で話したり、他の発表を見たりという機会があったので、そこでの話し方や見せ方を勉強することが出来た。

村田悠喜

昨年度は、七曲り一日ウォークというイベントに企画段階から参加させていただいたことで、中心になってイベントを企画・運営していくということの大変さを学ぶことができ、その活動を通して、学内や学外の方々との新たな出会いもあった。その経験が、自分のスキルアップにつながった。

篠田佳奈

今まで「Photoshop」などのソフトをまったく使ったことがなかったが、七曲りのパンフレットを制作するにあたり、先輩に教わり「Photoshop」で画像をスキャン・作成し、「InDesign」を駆使し仕上げる事が出来た。

廣嶋泉

地域からのコメント (抜粋)

NPO 法人 Links 代表 柴田雅美さん

私たちは、彦根市の七曲り仏壇街の地域づくりに取り組んでいます。今年、地域で初めて実施した「七曲り一日ウォーク」イベントで、「ななちよ」は街歩き企画とイベント全般の運営に関わってくださいました。

この街歩き企画のベースとなった七曲りマップは、単に街並みや古民家のマップではなく、七曲りの特徴である仏壇店や職人工房に加え、職人イラストと仕事まで書かれています。何度も仏壇店や職人を訪れ、綿密に調査をしていた姿が記憶に残っています。このマップは「ななちよ」の汗と涙と熱意で完成されたものです。

大学生の活動は自分たちのやりたいこと重視になりがちですが、「ななちよ」は、やりたいことと地域が望むことの両方を上手くバランスをとり、実現してきました。これからも充実して、一緒に活動してくれることを期待しています。本当にありがとうございます。

指導教員より (抜粋) 人間文化学部 黒田末壽

このプロジェクトは、仏壇づくりの絵本をつくって欲しいという地域のNPOの要請から始まっている。その前段階として試作した紙芝居が評判になり、読み聞かせというパフォーマンスの力に気づいて、昨年度は読み聞かせ活動中心に方向を修正したのだった。昨年度から今年度にかけてさらに修正がなされ、仏壇がつくられている七曲がりという地域そのものを知ることにつとめ、外部の人にも知ってもらおう活動に加わっている。ここに来てななちよは、地域とつながった、または、地域とななちよが相互に信頼できるまちづくりの仲間になったといえる。

ここまでこられたのは、自分たちがやりたいことをあきらめるのではなく、何が大事なことを考え、方向修正を重ねながら、しかも無理をせず、地域との関わりを一步一步深めていったからだろう。ななちよの成長過程は、学生が地域に入って活動する際の大事な点を自分たちでつかんでいった過程である。これから近江楽座の活動を始めようとする学生にとって、学ぶべきことが多い大事な活動として評価したい。

DELIVERABLE 成果物 / 制作物



パンフレット「ななマップ！」



11/26 七曲り一日ウォーク チラシ

19 レトロかふえ @能登川



能登川を魅力的にする会

東近江市にある能登川駅前商店街は大手スーパーなどに押されて、衰退しつつあります。昔懐かしい雰囲気が残っている能登川駅前商店街を、昭和・レトロなかふえを発信源として、人と人をつなげ、活性化を目指しています。

TEAM DATA

チーム名：能魅会（のみかい）

代表者：橋戸志織（環境科学部）

メンバー数：10名

指導教員：近藤隆二郎（環境科学部）

活動場所：東近江市能登川

関係団体：etokoro の会

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

- (1) 昔からの能登川産の食べ物を再現
- (2) 8月「縁日&ビアホール」
★見出し写真：縁日カフェ（8/27）
- (3) 9月「お月見カフェ」
- (4) 10月「秋カフェ」



ランチプレート（10/29）

- (5) 11月「昭和カフェ」



キッチンの様子（11/20）

- (6) 12月「えびす講カフェ」

活動の総括と提案

<よかった点>

初めは、指導教員である近藤先生を仲介に、地元の方とコミュニケーションをとっていましたが、回を重ねるごとに直接コミュニケーションをとれるようになり、地元商店街の方と信頼関係を築くことができました。

<苦勞・工夫した点>

広報という面で一番苦勞したと感じています。毎月のチラシのレイアウトが決まらず、ぎりぎりになってしまうことが多々ありました。商店街の最大イベントである12月のえびす講の際は、早くから広報を始め、商店街との連携もしっかりとれていたため、多くの方に来て頂き一番広報の結果が出たと思います。

また、活動の工夫点はメニュー開発です。地元で昔から食べられていた「ふなやき」というお菓子などの定番から毎月のテーマに沿ったプレートランチなどを考え提供しました。この取り組みは来て頂いた方にご好評いただきました。

<今後の提案>

- より広報に力を入れ、新たなお客様の獲得
→早期から広報に取りかかる
- 既存のお客様との積極的なコミュニケーション
→アンケートを実施してもよいかも
- より昭和レトロなインテリアに
- 映画+カフェのようなイベントの企画

スキルアップ - メンバーの所見 -

私が活動を通じて学んだことは、広報活動の重要性です。いくらメニューや内装にこだわっても、お客さんが少ない時は本当に虚しかったです。内装やメニューをいいものにするのは当たり前ですが、それ以上に地域の方々と触れ合う機会を作り、活動を発信していくことが特に重要だと学ぶことができました。

中山宗行

私はチラシ及びメニュー表作り、マップ作り、活動記録において、ラリレトロの活動に携わりました。振りかえってみると、商店街の方々や、仲間に助けられた活動期間でした。商店街の方々には昔のことなどを教わりました。仲間には、ほとんどの活動を任せきりでしたが、私の得意なデザインなどの分野で活動する機会を与えていただきました。

堀裕美衣

学生プロジェクトを立ち上げ、形にしていくまで本当にたくさんの困難がありました。学園祭ではなく地域に入って活動するということは、学生だけでなく商店街の方との連携が必要となってきました。様々な方とお話することで、コミュニケーション力がつきました。

松吉美佳

地域からのコメント

北川陽子さん

回を重ねるたびに手際が良くなりました。ランチプレートも毎回違うメニューとなるので楽しみでしたし、おいしかったです。それぞれが、仕事（指示）を待つのではなく、自分で見つけて役割を果たせるようになれましたか？学生らしい笑顔と元気な声かけ、返事が出来ましたか？今後も学生らしい地元の人が多縁したくなるカフェを期待しています。

指導教員より（抜粋）

環境科学部 近藤隆二郎

3回生と巻き込まれてきた2回生らがうまくチームとなって毎月のカフェを運営できた。地域とのつながりも徐々にでき、直にアドバイスや意見、あるいはモノなどの提供を受けてきたことは良い場を生み出してきたことと言える。

一方、広報やPR、報告といった点、地域からの提案の実践といった点などが弱かったのは反省点。また、場所であるエトコロの掃除や管理についても問題が残ったので、次年度はしっかりすることが大事。お金の使い方についても、何のための何に使うかを再度明確にすることが大事だろう。今後は、代替わりするが、地域とのつながり、目的と共にカフェだけに籠もらない事が大事である。子育て商店街や福祉、子どもの集まる場といったこともテーマにしてカフェを軸として展開していくことを期待している。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



7/23,24 プレオープン チラシ



12/3,4 えびす講カフェ チラシ



今と未来を見つめて

子どもや高齢者、障がいの有無に関わらず、地域の方々を対象に幅広く活動しています。人との触れ合いの中で、コミュニケーションや健康について私たち自身が将来に必要な力を活動の中で養い、自然と身につけています。

TEAM DATA

チーム名：未来看護塾

代表者：中川杏奈（人間看護学部）

メンバー数：48名

指導教員：伊丹君和（人間看護学部）

活動場所：彦根市内

関係団体：彦根市立病院

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

- (1) 彦根市立病院 小児病棟での活動
- (2) 彦根市立病院 緩和ケア病棟での活動
- (3) NPO ぼぼハウスでの活動
- (4) 城南小学校 学童保育での活動
- (5) 「空想の森」上映会
- (6) 東日本大震災復興支援バザー
- (7) 湖風夏祭「ちびっこ広場」
- (8) 野瀬町中学会
- (9) 野瀬町地藏盆
- (10) 彦根いきいきフェア
- (11) 湖風祭「ちびっこ広場」
- (12) 彦根市立病院 小児病棟でのクリスマス会
- (13) 田の浦復興ワカメ祭

★見出し写真：田の浦復興ワカメ祭 (2/22)



敬老会 (2/8)

活動の総括と提案（抜粋）

今年度は活動計画と成果や新聞等への掲載状況に現れているように、昨年度に比べると活動の幅が広がった。特に、宮城県南三陸町田の浦地区でのイベントを行った中で、参加したメンバー1人が今何をすべきかということを考え、主体的に行動できていたのではないかなと思う。従って、それぞれスキルアップできた部分があったと考えられる。

また、いつもはイベントへ参加させて頂く中で、決められた役割の中で自分たちがいかに役割に添えるかという部分が強かった。しかし今回の田の浦でのイベントは、まず自分たちが田の浦の方々に何ができるのかという面からスタートして、内容を考えていったので、その分当日のイベントに対して各メンバーが主体的に動いていけたのではないかなと思う。「イベント作り」という面は今までの未来看護塾の活動の中では、あまりできていなかった点であるので、今回の経験は貴重だった。そして、今年度は当初の申請書になかったイベントにも多く参加していくことができた。これは未来看護塾が地域で継続して活動している存在であるからこそ、お話を頂いている部分もあるのではないだろうかと思う。反省点として、継続した地域での活動は、参加するメンバーが固定されてしまうことが多かった。メンバーが固定されることによって、活動がスムーズにいやすいという面もあるが、個人個人の負担が重くなっているという現状もあった。来年度からは、未来看護塾に参加している各人が参加しているという自覚を持ち、地域で積極的に活動していけるようにしていきたい。また田の浦での支援活動も継続して行っていきたい。

スキルアップ - メンバーの所見 -

未来看護塾の活動に参加して人と関わることの大切さや楽しさを改めて感じました。特に田の浦での復興支援イベントは白紙の状態からスタートして話し合いを進めていき、当日は多くの方々に参加して頂きました。被災地の方々の笑顔が見られて、私たちでも何かできるんだと思いました。

中川杏奈

未来看護塾の活動を通して地域の人たちとのかかわる機会を多く得られました。とくにぼぼハウスの子どもたちとのかかわりの中では、どのようにしてかわっていくことがその子の自立や成長のためになるのかといった視点を身につけることができ、自分の中で大きくスキルアップできた点だと思います。

野口遼

未来看護の活動の一つである病院での活動では、入院中の子どもや死を間近にした患者様と関わらせていただき、患者様への接し方を学んだり、自身の看護観を見つめ考えたりする良いきっかけとなりました。患者様や看護師の方々と関わる中でコミュニケーション能力のスキルアップにもつながりました。

山田実佳

未来看護塾の活動を通して、人の温かさや優しさに触れることができました。特に学童ボランティアで小学生の子どもたちと関わり、元気をもらいました。また、小学校へ行く回数を重ね、子どもたちと話したり遊んだりする中で、関わり方を学ぶこともできたと思います。

守田千純

地域からのコメント

NPO 法人ぼぼハウス 福井久美子さん

私達は「人と関わることで支え合う社会」を作る一助となればと活動している NPO である。その活動の中で「障がい児童と共に活動する」事に未来看護塾さんに尽力して頂いている。肉体的な力という訳ではなくソフト面である。子ども達の思いに気持ちを寄せ、『子どもが活動に取り組む原動力』となる気持ちを支えてくれる貴重な存在である。

指導教員より (抜粋)

人間看護学部 伊丹君和

毎年着々と進化し続けているように感じます。特に今年は、宮城県南三陸町でボランティア活動を行い、口では言いあらわせない学びを学生たちは得てきました。また、多くの住民の方に元気と笑顔を提供できたのではないかと考えています。

学生の「自ら学ぶ力」を育てるとともに、人との関わりや看護への興味・関心を深め、教育的な効果も大きいと考えています。学生間の縦と横のつながりの関係性はもちろん、地域の方々との関係性も深まり、自ずとコミュニケーション力の向上にもつながっていきます。悩み試行錯誤を重ねる活動の中で、豊かな感性をも育んでいます。

看護学生だからこそできる活動が今後益々発展し、地域の方々により健康で笑顔になるために貢献できるよう、そして支援する学生たちも成長できるよう、引き続き応援していきます。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



みかん通信 全8号

21 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト



子ども達と共に成長する

自閉症などの障がいを持つ子ども達と創作活動などを通して関係を築き、共に成長することを目的として活動しています。将来子ども達が余暇活動を充実出来るよう、宿泊体験やバス旅行などの社会体験も行っています。

TEAM DATA

チーム名：ボランティアサークル Harmony
代表者：鈴木美穂（人間文化学部）
メンバー数：18名
指導教員：黒田末壽、竹下秀子（人間文化学部）
活動場所：彦根市
関係団体：NPO法人 障害者の就労と余暇を考える会 メロディー
近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22**

PROJECT

実施事業

(1) 定例活動



定例活動 お茶体験 (7/24)

(2) 茶摘み・製茶体験

(3) 宿泊体験活動

★見出し写真：冬の宿泊体験 (11/26)

(4) カヌー体験

(5) クリスマスコンサート

(6) 芋掘り・焼き芋会



芋掘り体験 (10/23)

(7) 餃子づくり体験

活動の総括と提案（抜粋）

今年度は定例活動の回数を少なくし、特別な活動を多く取り入れ、様々な体験をしてもらうことができた。定例活動だけでは見ることができない子どもたちのいきいきした姿や表情を見ることができ、学生にとっても有意義な活動を行うことができたと感じている。

とはいうものの、やはり基本は定例活動である。この継続した活動があるからこそ学生も子どもたちの変化に気づくことができる。

来年度はより円滑な定例活動を進めるために、それぞれの活動に対する担当者をはっきりと決め、その人を中心として準備などの段取りを整え、活動が終わると成果、課題を記録に残すという体制をしっかりと作り上げていく必要がある。そうすることにより、学生一人一人に自分が Harmony の活動を支えているという自覚がわき、それが自主的活動につながっていくと考える。そしてそのような一人一人の成果を共有する場として、メロディーの方々と共にを行う定例会議や、学生が自主的に開く昼会議を効果的に利用していければよいと思う。

また今年度は地域に密着して活動ができたのではないかと考えた。近江楽座の他の団体である一姓の方々との合同企画や、クリスマスコンサートで彦根のゆるキャラを呼んだこと、ギョウザ作り体験の際に彦根の施設を貸していただいたこと等。また、学生が主体となり準備をすすめ、積極的に活動していったのではないかと考える。

Harmony が積極的に活動を続けてこれたのはメロディーの方々、指導教員の方々、地域の方々に協力をしていただいたからに他ならない。期待に応えられるように、今後も学生が自主的な活動をしていくなかで、Harmony のよりよい発展に努めていくつもりである。

スキルアップ - メンバーの所見 -

定例活動では、作業中ですぐに違う場所に行ったり、立ち歩いていたり子どもも、最近では比較的集中して作業できる子が増えてきた。一姓とのコラボで、あまり笑わない子のすごく満面の笑顔が見れた。これらのことから実際に作業の中でも子どもの変化を分かる場面があるということを感じた。 **西口舞華**

ハーモニーの活動はとにかく楽しいです。特に子どもたちの方から話しかけてくれたり、笑ってくれたりするととても嬉しいです。また保護者の方とても勉強になります。ハーモニーの活動を通してたくさんの人たちと色々なことができるおかげで、とても充実した学校生活を送れています。 **谷口友美**

私が担当したのはギョウザ作りであったが、活動を行う前には食材の手配や持ち物の確認など出来る限りの想像をし、不備がないか考える必要があると身をもって感じた。このように円滑な活動運営を行うために必要なスキルを、活動の準備を行うことによって向上させることができたと感じる。 **狩野文音**

地域からのコメント (抜粋)

NPO 法人メロディー会員、養護学校教員 後藤真吾さん

ハーモニーの活動は、障害児者と同世代の仲間であるとともに、社会参加を積極的に促す支援者としての役割を担っています。障害児者やその家族が社会の中で当たり前のように生活したいという願いを実現してきているという、大変大きな成果をあげています。定例活動は子どもたちの生活の中に位置づいた楽しい活動になっており、コンサートは広く地域に暮らす多くの障害児者が毎年楽しみにしている行事として定着してきています。

近年においては、ハーモニーを核として他の学生サークルや一般ボランティアとの連携の輪が広がってきており、活動の広がりとともに障害児者理解の深まりを感じるところです。また、障害児者の家族にとっては、ハーモニーの支援によって家族だけではできない活動ができることが大きな励みと希望になっています。

指導教員より (抜粋) 人間文化学部 竹下秀子

従来実施してきた活動に加えて、新たに芋掘り・焼き芋会、餃子づくり体験にとりくんだ。これらの活動を取り入れたことで、1) 活動に多様性を持たすことができた、2) 初めての活動でも学生とコミュニケーションをうまくとりながら進める力が子どもたちに育っていることが確認できたなど、大きな成果を得た。1) については、東北から避難してきた子どもたちへも参加を呼びかけたことなども含まれる。障がいのある場合への支援だけでなく、地域で期待される多様な対象への支援に向けても適宜対応する意欲とそのためのノウハウを持っていることを示せたことも評価したい。

本プロジェクトにかかわる子どもたちはもちろんのこと、保護者の方々、地域の支援者とのコミュニケーションや関係性の深化から与えられるものは何ものにも代えがたい。とりわけ、本プロジェクト推進を強力にサポートくださり、学生に愛情深く接して下さる保護者の方々のご尽力に対して深く感謝したい。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



11/26 クリスマスコンサート ポスター



滋賀の暮らしの魅力を伝える

観光雑誌には載っていない“滋賀ならではの日々の暮らしの一片”。それらを記事として残し、雑誌『cococu』を制作・販売しています。今年取材を通して出会ったモノ・コトの展示会も行い、広く滋賀の魅力を伝えています。

TEAM DATA

チーム名：cococu—おうみの暮らしかたろぐ—
 代表者：立石愛美（人間文化学部）
 メンバー数：8名
 指導教員：印南比呂志（人間文化学部）
 活動場所：滋賀県内
 関係団体：—
 近江楽座活動年度：(H16) (H17) (H18) (H19) (H20) (H21) (H22)

PROJECT

実施事業

(1) cococu vol.3の企画



企画会議 (11/11)

(2) 滋賀県全域での取材

★見出し写真：マキノ取材 (10/27)



マキノ取材 (10/27)

(3) cococu vol.3の編集・発行

(4) 成果物の発信

(5) 展示会

活動の総括と提案

『cococu—おうみの暮らしかたろぐ—』の活動も三年目を迎え、今年度は vol.2、vol.3 を発行することができました。vol.1 で生まれた cococu のイメージを継承しつつ、より魅力ある雑誌にしようと会議を重ね、企画・取材・編集を行いました。

活動する上で大切にしたいことは、まず自分たちが滋賀の暮らしの中にある魅力を知ること。特産品や観光名所に目が向きがちですが、なんでもないような街並、生活している場所を改めて見つめてみると、いつもそこにあったけれど見過ごしていた魅力的な事柄が見えてきます。メンバー自身が楽しんで取材をすることが、興味を持って読んでもらえる雑誌に繋がると考えています。

また、京都や石川、徳島など、徐々に取扱店も増え、県内外へ cococu が広がっています。4月には今までの活動をまとめた展示やワークショップも行う予定もあり、雑誌として記録するだけでなく、色々な形で“滋賀の暮らし”を発信していきます。

スキルアップ - メンバーの所見 -

cococu 制作を通して地域を知り、実際に関わる中で滋賀の魅力や温かい人々に触れ、地域にもっともっと出て行こう、意識を広げようと思えるようになりました。また編集や雑誌の制作に関しても、工程や構成、印刷などの知識が身につくことからの自身の作品の向上に結びつけていこうと思います。

中山ひとみ

ひとつの地域に目を向けるだけでも、たくさんの世界が広がっていることを実感できた。文字組みや文章構成、写真の配置の仕方や大きさなど、デザインの上での見せ方も学べたし、デザインソフトの技術の向上にも繋がった。皆でひとつのものを作り上げることの大変さと楽しさを知ることができたと思う。

松本咲

cococu の活動を通して、私自身気づかなかった滋賀の魅力にたくさん出会うことが出来ました。上手く言葉にして伝えるのは難しかったです。何気ない毎日の中でも、少し視線を変えれば多くの発見があり、そんな暮らしの中にこそ本当の滋賀の魅力があるのだと知りました。

坂口祐紀子

地域からのコメント (抜粋)

蒲生公民館館長(取材時) 門谷英郎さん

暮らしや文化を記事にして、一つの魅力として光を当てることには大きな意義があると思います。滋賀には色々な資源があります。それをきちんと記録して残していく、発信していくという活動に、これからも期待しています。

指導教員より (抜粋) 人間文化学部 印南比呂志

近江地域に暮らす人々の生活を観察して、その日常に潜むささやかで豊かな時間に視点をおいた雑誌を発行する。学生たちは、この考え方や姿勢をしっかりと共有し始めている。今年度は特に311東北震災以降、人々は普通のくらしを取り戻すことと、日常の大切さに気づいている。そのことが cococu という雑誌の目的意識を高めることとなった。一号ではくらし、二号ではしごと、三号ではたべるというテーマで学生たちは活き活きと取材編集作業を行っていた。それだけ魅力的な地域資源が見つかったのだろう。地域雑誌という取組みが社会で注目されはじめている。cococu も県外から取り引き依頼も舞い込むようになった。他の地域で暮らす滋賀県出身者からも評価をいただけるようになってきた。次号に益々期待が膨らんで行く。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



cococu vol.2



cococu vol.3

23 石山アートプロジェクト



アートで拡がるコミュニケーション

ワークショップを中心に、石山でしかつくりえないアートを地域の人・ハンディキャップを持つ人・アーティストと共に制作。活動を通じ、様々な人とのコミュニケーションを誘発し、相互理解を深める機会づくりを目標にしています。

TEAM DATA

チーム名：いしアート

代表者：川村浩一（人間文化学研究所）

メンバー数：11名

指導教員：森川稔、佐々木一泰（人間文化学部）

活動場所：大津市石山商店街

関係団体：石山商店街振興組合、知的障がい者授産施設 瑞穂

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22

PROJECT

実施事業

(1) ワークショップ

★見出し写真：石山落語第三席 イン트로 (8/6)



石山落語第二席_小咄をつくらう!ワークショップ (7/30)

(2) 石山アートまつり

(3) 巡回展



巡回展 大津パルコ (3/4)

(4) 報告書制作

活動の総括と提案 (抜粋)

今年度はプロジェクト3年目ということもあり、新たなアプローチを試行する機会となった。これまでのモノとしてのアートだけではなく、コトバとしてのアートという切り口で商店街で落語を行った。老若男女、年代問わず多くの参加があったことは、プロジェクトの幅を広げるための支えとなり、次のアイデアを試す活力となった。また、こうした新たな試みに取り組むことで更なるネットワークの構築につながっている。今年度は、龍谷大学落語研究会やプロの落語家との関係も生まれた。商店街に欠けている娯楽という要素を今後補え、石山商店街が目指す「暮らしの広場」としての商店街に成長していくために一石投げられたのではないかと考えている。あとは、ここで生まれたネットワークを機能させる仕組みを整備していくことが今後の課題である。新たな街の使い方を提示できたこともひとつの成果である。駐車場や空き店舗を街中のイベントスペースとして捉え、活用し、街の資源として示せたことは地域に貢献できるプロジェクトへ少し成長できた結果だと考えている。

今後の提案としては、活動で生まれたネットワークやワークショップの手法、コンテンツを現在石山商店街が行っている「街の駅」の社会実験に還元していきたい。また、今後も様々な団体を石山アートプロジェクトが媒体となって石山商店街に引き込むことが必要である。現在、商店街では石山アートプロジェクトがつかない滋賀大学の学生やNPOと連携し新たな事業に取り組んでいる。直接的には商店街と協働した事業をせずとも、こうして自らが様々なアーティストや団体を引き込む呼び水となることは、間接的にはあるが地域に大きく貢献することにつながるかと考えている。

スキルアップ - メンバーの所見 -

石山アートプロジェクトを通じてコミュニケーション能力が高められたと思います。初めて経験したピラ配りでは人に声をかける難しさを感じました。しかし徐々に表情や声をかけるタイミング、話し方がわかり、ピラを配る中でもコミュニケーションを図ることができました。

大林みさよ

プロジェクトに参加して空間の作り方を学びました。今回の石山での落語は屋外/屋内だったり、狭い所/広い所だったりとそれぞれ全く違った場所を活用して行いました。そうした場所を求められる機能を充実させながら成立させるプロセスが経験できました。

中上ちえ

この『石山アートプロジェクト』を通して、様々なワークショップの手法を学んだように思います。今年度の落語は人に言葉として、楽しさや面白さ、怖さが伝わっていきます。言葉だけで、周囲の人をその世界に引き込ませるのは、すごい力だなと思いました。

高橋真希

地域からのコメント (抜粋)

石山商店街振興組理事長 黒崎弘之さん

滋賀県立大学院生の川村君との付き合いは、3年目になります。今年は、落語で、言葉のアートと言うことでした。我々商店街メンバーは、「言葉のアート」とはどういうことなのかと思っていました。計5回開催して行く内にある程度分かって来たように思います。

川村君のお蔭で、滋賀大学生を知り、1年間我々商店街が考えていた寺子屋を開き、塾に行けない子、塾に合わない子の勉強を教えることが出来、新しい道が広がったようです。NPO 法人 CASN の谷口さんが「まちなか子どもほっとステーション」を商店街の空き店舗で開催出来たのも、川村君のお蔭だと思っています。川村君が卒業し学生さんとの関係が途切れますが、今後、後継者が出てくるのを期待しています。これからもよろしく願います。

指導教員より (抜粋)

地域づくり教育研究センター 森川稔

人と人のつながりの大切さが、今、あらためて指摘されている。商店街は元来、モノが売り買いされるだけの場ではなく、人が集まり交流し、そこから新たな人のつながりや文化が生みだされる場でもある。石山アートプロジェクトは、石山商店街を舞台に、アートというものを通じて、新たな人のつながりを生み出していこうとする取り組みである。

3年目になる今年度は、「笑い」というこれまでとは趣きの異なる切り口で、商店街に新たな磁場を創り出そうと試みた。学生らしいチャレンジであったと思う。一過性のものにならず、石山らしい「笑い」を根づかせていくことができれば、と思う。

石山にこだわった様々なアートに挑戦した3年間の取り組みは、「暮らしのひろば」をめざす石山商店街に、大きな一石を投じたことは間違いない。何らかのかたちで、取り組みが継続していくことを期待したい。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



Ishiyama Art Project 2009-2011(活動報告書)

01 Shiga 食育推進プロジェクト

2-2 『らくざしんぶん』

チームが1年の活動をまとめた活動報告新聞です。共通トピックである①「チームのビッグニュース」②「プロジェクト紹介」③「プロジェクト自慢」④「地域の声」⑤「成果と課題」を中心に記事を作成しています。

近江楽座ホームページに、カラー版のPDF ファイルを掲載しています。ぜひご覧ください。

近江楽座 HP: <http://ohmirakuza.net/>



02 木興プロジェクト



03 菜の花エネルギー



04 とよさと快蔵プロジェクト

toyosato kaizo project

1 掃除は改修の第一歩!
 建物が建てられたばかりの頃には、建物の周囲に土や石が落ちていた。中庭の草も伸び放題で、建物の周囲も荒れ放題で、掃除ができていない状態でした。掃除は改修の第一歩です。掃除が完了すると、建物の周囲がきれいになり、建物の価値も高まります。

2 WSIに向けての補修整備
 建物の周囲を掃除し、中庭の草を刈り取り、建物の周囲を整頓しました。また、建物の周囲に石を敷き、建物の周囲を整頓しました。また、建物の周囲に石を敷き、建物の周囲を整頓しました。

3 他の改修団体への視察
 他団体の改修現場を視察し、改修の方法やスケジュールなどを学びました。また、他団体のメンバーと交流し、改修のモチベーションを高めました。

4 古民家でのWS
 古民家でのワークショップを開催し、建物の歴史や文化について学びました。また、古民家の魅力を伝え、建物の価値を高めました。

5 改修は着々と進行中
 建物の周囲を整頓し、中庭の草を刈り取り、建物の周囲を整頓しました。また、建物の周囲に石を敷き、建物の周囲を整頓しました。

2013年度の成果と反省
 本年度は、建物の周囲を整頓し、中庭の草を刈り取り、建物の周囲を整頓しました。また、建物の周囲に石を敷き、建物の周囲を整頓しました。

05 とよさらだプロジェクト

とよさらだ新聞 始動☆大ブーム

とよさらだって?

お金の節約でできるプロジェクトの仕組み

06 バンデイラ・ジ・オウロ

バンデイラ・ジ・オウロ

企画授業大成功!

メンバーが教え、継続的にベネローで学習活動を行うことができています

07 限界集落の村おこし

男鬼楽座新聞 新時代へ

書き替え、新時代へとシフトなるか?

「普通の人生では味わえない!」

08 一姓

一姓とは？

一姓とは、2010年4月に、東洋経済総合研究所が発表した調査結果に基づく、日本人の姓の構成比を指す。2010年調査で、姓の構成比が最も高いのは「山田」で、約11.5%を占めた。続いて「鈴木」で約10.5%、「佐藤」で約8.5%、「田村」で約7.5%、「高橋」で約7.5%だった。この調査は、2000年から毎年実施されている。2000年の調査では、「山田」が約12.5%、「鈴木」が約10.5%、「佐藤」が約8.5%、「田村」が約7.5%、「高橋」が約7.5%だった。2000年の調査では、「山田」が約12.5%、「鈴木」が約10.5%、「佐藤」が約8.5%、「田村」が約7.5%、「高橋」が約7.5%だった。

犬伏アトム

交際プロジェクト

後期の活動

地元の声

一年間の振り返り

09 おとくらプロジェクト

Otokura Project NEWS

SATURDAY, MARCH 31, 2012

二年目の「歩み」

コンサート・ライブが充実した一年に

プロフィール

TOPICS1 初となる湖風祭での出張営業

TOPICS2 つながりの一と

TOPICS3 成果と課題

10 あかりんちゅ

近江楽座

あかりんちゅらしん

2012年 3月 31日

あかりんちゅついに! S プロデビュー!

プロジェクト自慢

What's AKARINCHU?

成果と課題

地域の声

11 Living design 15th FASHION SHOW

Living Design Fashion Show "born"

発行日 2012.03.21
発行先 東洋経済インプレス

プロジェクト紹介

今年度の特徴

NEWS

成果と課題

活動内容

ワークショップ

ファッションショー "born"

12 ART FORUM 2011 DIG'S

近江八幡の魅力 発見!

ワークショップの流れ
1.近江八幡の歴史を知ろう
2.近江八幡の歴史を再現しよう
3.近江八幡の歴史を語りよう
4.近江八幡の歴史を体験しよう

DIG'S 新聞

5月11日 発行
DIG'S
5月11日発行

近江八幡の歴史を語り継ぐこと。それは、近江八幡の魅力を伝えることでもある。私たちは、近江八幡の歴史を語り継ぐことを通して、近江八幡の魅力を伝えることを目指している。

八幡再生計画 前編

八幡再生計画の第一歩は、近江八幡の歴史を知ること。私たちは、近江八幡の歴史を知ることを通して、近江八幡の魅力を伝えることを目指している。

2011年度の成果と課題

2011年度は、近江八幡の歴史を知ることを通して、近江八幡の魅力を伝えることを目指している。

虹のぼんちん

虹のぼんちんは、近江八幡の歴史を知ることを通して、近江八幡の魅力を伝えることを目指している。

13 内湖の侵略的外来生物駆除

県大バサーズ新聞

守ろう琵琶湖の在来種

琵琶湖の在来種を守る。琵琶湖の在来種を守ることは、琵琶湖の生態系を守ることに繋がります。琵琶湖の在来種を守ることは、琵琶湖の生態系を守ることに繋がります。

県大BASSER'S 全国ネットに新規参入!!

琵琶湖の在来種を守る。琵琶湖の在来種を守ることは、琵琶湖の生態系を守ることに繋がります。琵琶湖の在来種を守ることは、琵琶湖の生態系を守ることに繋がります。

地域の声

琵琶湖の在来種を守る。琵琶湖の在来種を守ることは、琵琶湖の生態系を守ることに繋がります。琵琶湖の在来種を守ることは、琵琶湖の生態系を守ることに繋がります。

14 いかにして民家?

古民家楽座新聞

古民家楽座の魅力を伝える。古民家楽座の魅力を伝えることは、古民家楽座の魅力を伝えることに繋がります。古民家楽座の魅力を伝えることは、古民家楽座の魅力を伝えることに繋がります。

七曲がroud町あそびイベント開催

七曲がroud町あそびイベントを開催しました。七曲がroud町あそびイベントを開催しました。七曲がroud町あそびイベントを開催しました。

白谷で高層!

白谷で高層プロジェクトを進めています。白谷で高層プロジェクトを進めています。白谷で高層プロジェクトを進めています。

白谷で高層!

白谷で高層プロジェクトを進めています。白谷で高層プロジェクトを進めています。白谷で高層プロジェクトを進めています。

15 SenS - “縁” 側でつながる人の“縁” -

SenS - “縁” 側でつながる人の“縁” -

SenSプロジェクトの魅力を伝える。SenSプロジェクトの魅力を伝えることは、SenSプロジェクトの魅力を伝えることに繋がります。SenSプロジェクトの魅力を伝えることは、SenSプロジェクトの魅力を伝えることに繋がります。

一年間の活動を通じた成果と課題

一年間の活動を通じた成果と課題を報告します。一年間の活動を通じた成果と課題を報告します。一年間の活動を通じた成果と課題を報告します。

石寺と共に

石寺と共にプロジェクトを進めています。石寺と共にプロジェクトを進めています。石寺と共にプロジェクトを進めています。

みんなを巻きつけよう

みんなを巻きつけようプロジェクトを進めています。みんなを巻きつけようプロジェクトを進めています。みんなを巻きつけようプロジェクトを進めています。

16 Taga-Town-Project

はるなちよのみなさん、ごきげんいかがですか。今年も、ハルナチヨの活動が盛り上がり、大変盛り上がりました。今年も、ハルナチヨの活動が盛り上がり、大変盛り上がりました。

01 箱古本
はるなちよのみなさん、ごきげんいかがですか。今年も、ハルナチヨの活動が盛り上がり、大変盛り上がりました。

02 平成23年度の主な活動内容
はるなちよのみなさん、ごきげんいかがですか。今年も、ハルナチヨの活動が盛り上がり、大変盛り上がりました。

活動報告ニュースペーパー Taga-Town-Project

03 ちょっとささいでよい！プロジェクト自習 楽しいから続く
はるなちよのみなさん、ごきげんいかがですか。今年も、ハルナチヨの活動が盛り上がり、大変盛り上がりました。

04 アツい！多賀の人々
はるなちよのみなさん、ごきげんいかがですか。今年も、ハルナチヨの活動が盛り上がり、大変盛り上がりました。

05 積極性と計画性の両立を
はるなちよのみなさん、ごきげんいかがですか。今年も、ハルナチヨの活動が盛り上がり、大変盛り上がりました。

17 信・楽・人-shigaraki field gallery project

信・楽・人新聞
Shigaraki Field Gallery Project

信・楽・人新聞
Shigaraki Field Gallery Project

信楽人とは？
信楽人とは、信楽の文化を継承し、発展させることを目指す人々です。

信楽の新たな注目スポットに
信楽の新たな注目スポットに、信楽の文化を継承し、発展させることを目指す人々です。

信楽人とは？
信楽人とは、信楽の文化を継承し、発展させることを目指す人々です。

信楽の新たな注目スポットに
信楽の新たな注目スポットに、信楽の文化を継承し、発展させることを目指す人々です。

信楽人とは？
信楽人とは、信楽の文化を継承し、発展させることを目指す人々です。

信楽の新たな注目スポットに
信楽の新たな注目スポットに、信楽の文化を継承し、発展させることを目指す人々です。

18 七曲りでいっちょやったるか！

七曲りでいっちょやったるか！

ななちよ新聞
Hannarett Complete! としてお披露目

地元の人々の画
ななちよ新聞の発行に協力した地元の人々の画を掲載します。

今年度を目指して
今年度の活動内容を掲載します。

ななちよテレビ初出演！
ななちよのメンバーがテレビに出演しました。

19 レトロかふえ@能登川

レトロかふえ@能登川

レトロレトロ新聞
レトロレトロ新聞の発行に協力した地元の人々の画を掲載します。

レトロレトロ新聞
レトロレトロ新聞の発行に協力した地元の人々の画を掲載します。

レトロレトロ新聞
レトロレトロ新聞の発行に協力した地元の人々の画を掲載します。

レトロレトロ新聞
レトロレトロ新聞の発行に協力した地元の人々の画を掲載します。

レトロレトロ新聞
レトロレトロ新聞の発行に協力した地元の人々の画を掲載します。

20 未来看護塾

2012年3月31日発行 地域福祉推進課 地域福祉推進課 地域福祉推進課

未来看護塾

みらいかんじゅく

未来看護塾

チームのビッグニュース!

「未来看護塾」は、地域福祉推進課が主催する、障害のある若者のための職業体験プログラムです。今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。

プロジェクト紹介

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

チームのビッグニュース!

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

ちよっと書いてよプロジェクト自覚

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

成果と課題

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

21 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

2012年3月31日発行 地域福祉推進課 地域福祉推進課 地域福祉推進課

Harmony新聞

クリスマスコンサートに 産根のゆるキャラ登場!

今年度のクリスマスコンサートは、産根のゆるキャラが登場し、大盛況でした。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

成果と課題

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

ちよっと書いてよプロジェクト自覚

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

22 cococu -おうちの暮らしかたろぐ-

2012年3月31日発行 地域福祉推進課 地域福祉推進課 地域福祉推進課

cococu新聞

BIG NEWS!

cococu vol.3 発行!!

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

プロジェクト紹介

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

成果と課題

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

ちよっと書いてよプロジェクト自覚

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

23 石山アートプロジェクト

2012年3月31日発行 地域福祉推進課 地域福祉推進課 地域福祉推進課

石山落語

石山アートプロジェクト 2011 -コトバとアート-

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

プロジェクト紹介

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

成果と課題

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

ちよっと書いてよプロジェクト自覚

今年度は、看護職を目指している若者を中心に、様々な職種で活躍する機会を得ました。また、地域福祉推進課の職員も、若者の成長を支える役割を果たしました。

共通プログラムの報告

3-1 スキルアップ講座「伝える技術」

仲間や地域の人たちと情報も共有し、活動計画をつくる。活動記録を残し、さまざまな媒体を使って発信する。活動を盛り、発展させていくためには「伝える」という行為は非常に重要で、自分たちの思いをいかに伝え、共感してもらい、行動につなげていってもらおうか。今回の地域活動スキルアップ講座は、「伝える」技術を学ぶ3つの講座を開催します。

2011年度 近江楽座
スキルアップ講座

近江楽座における地域活動を促進、よりステップアップしていくための場を提供するの向上を定めます。

第1回 広報の仕事	9月20日(火) 18:00~19:30 交流センター研修室1,2 講師：彦根市情報政策課広報係・手塚崇生さん 内容：自分たちの活動を効果的に伝えるため、文章の書き方や写真の活用法、各種メディアでの活用、広報の仕事のノウハウを学ぶ予定です。
第2回 活動写真の撮り方	9月26日(月) 18:00~20:00 交流センター研修室1,2 講師：彦根市市民生活センター 広報課員さん 内容：写真の撮り方、構図、照明、背景、被写体の選び方、カメラの使い方、写真の活用方法などについて学びます。(カメラの持ち運びも可能です)
第3回 ブログ活用法	10月3日(日) 18:00~19:30 情報処理講習室3(A5-2031) 講師：「美」プロジェクトのメンバーさん・佐藤真実さん 内容：日々の活動記録をブログに書くこと、情報発信ツールとしても活用可能なブログの活用法について、応用事例やホームページ制作のノウハウを学びます。 対象：近江楽座のボランティアメンバーおよび「地域貢献実習生」1日研修生受講生 ※定員50名10名

問合せ・申し込み：近江楽座事務局・彦根県立大学地域づくり教育研究センター
TEL：0749-28-9919（内線 6215）、E-mail：office@hokoku.ac.jp

近江楽座における地域活動を進め、よりステップアップしていくための基本的スキルの向上をめざして、「伝える」技術をテーマとした連続講座を開催しました。

第1回 「広報の仕事」

日時：2011年9月20日(火) 18:00-19:30
会場：交流センター研修室1~3
参加者：25名(9チーム+実践学実習I受講生)

彦根市情報政策課広報係・手塚崇生さんを講師に招き、「広報の仕事」をテーマに、広報とは何なのか、広報をするにあたって大事なことは何なのかについてお話していただきました。

伝えるという行為は、相手が受けとってくれて初めて成り立つもの。相手の立場になって、タイミングや言葉遣いを選ぶことが大切だということです。

○「人の顔は目を引く」

紙面上に人の顔の写真やイラストがあると、読者の目をひきやすくなるそうです。

○「文章はできるだけ短く」

文章を書いていると、一文がつつい長くなってしまいます。意図的に短くするコツは「主語と述語をなるべく近づける」ことだそうです。

○「5W 1Hに注意!」

いつ(when)、だれが(who)、何を(what)、どこで(where)、なぜ(why)、どのように(how)。



これらの頭文字をとった5W1H、どれかがかけた情報では、あいまいになってしまいます。

最後にまとめとして、いつでも身の回りにある「伝え方」を観察して、チェックを怠らずに何度もチャレンジしてください!と激励をいただきました。

| 第2回 「活動写真の撮り方」

日 時：2011年9月26日(月) 18:00-20:00

会 場：交流センター研修室 1~3

参加者：18名(6チーム+実践学実習I受講生)

講師として株式会社長浜スタジオ・石黒晋さん、浅井千穂さんをお招きし、「活動写真の撮り方」をテーマに、その場で実践的なアドバイスを受けながら、よい写真の撮り方を学びました。

前半はスライドを見ながらの講座。その場で写真を撮影し、スクリーンで確認することで、構図や望遠・広角の使い分けなどをとてもわかりやすく解説していただきました。

後半は、実際に全員で写真を撮影。被写体として、あかりんちゅさんがろうそく作りを教えてくださいました。ろうそくを作る人と、それを写真に撮る人の二手に別れ、交代で石黒さんからアドバイスをもらいながらシャッターを切りました。

活動写真を撮る場合に大事なこと

- 積極的に撮影対象の人に話しかけて、笑顔を作ったり作業工程を撮らせてもらう。
- 撮影者が動きまわって、いろいろなアングル・カメラ設定でたくさん撮る。
- まず、“5W 1H”を押さえること。
“いつ”なら、タイムスケジュールを写す、“何を”なら、イベントのポスターを写すなど。(「広報の

仕事」の回でおしえていただいたポイントとも共通しています。)

- 「いいな」と思ったものをとことんまねしてみる。挑戦してみることで、自分のものにしていく。

講義と実践を盛り込んだ凝縮の2時間、楽しく丁寧に教えてくださった、石黒さん、浅井さん本当にありがとうございました。



Ⅰ 第3回 「ブログ活用法」

日 時：2011年10月3日(月)18:00-19:30

会 場：交流センター研修室 5,6

参加者：23名(8チーム+実践学実習I受講生)

㈱バードデザインハウス・竹岡寛文さんを講師に招き、「ブログ活用法」をテーマに、ブログを活用するポイントを教えていただきました。

竹岡さんは、県立大学・近江楽座のOBで、「とよさと快蔵プロジェクト」の創始者の一人。卒業後、現在の会社に勤められてからは近江楽座のホームページも作っていただいています。

この日は、「ブログというツールにはどんな特徴があるか」「どのような活用法があるか」「いいブログを書くにはどうしたらいいか」という内容でお話いただきました。

この日の竹岡さんのプレゼンツールは、なんとブログ。説明用の記事には参照サイトなどのリンクが貼ってあり、スムーズに進行できる上に、講座が終わったあとでもインターネットから講座の内容を見返すこともできます。

講義を通して、以下の様なポイントを教えていただきました。

- 人に読んでもらえるブログを書くには、まずブログをたくさん読むこと。
- 読み手の立場に立つこと。
- ブログはあくまでlog(ログ=記録)なので、紙媒体やSNSなどと連携して、ブログの存在を周知することも必要。

また、活動記録としてブログを使う場合は、

- あとで検索が簡単にできるように「カテゴリ分け」する。

- ブログ記事を印刷して紙媒体として保存し、メンバーの情報共有・記録ツールにする

講師の竹岡さん、幅広く専門用語も多い分野の内容を、短い時間でわかりやすくお話ししていただきありがとうございました。



分。グループワークは、5～6のチームを3つのテーブルに分け、各自が好きなテーブルを選び、チームへの質問や特徴を出し合いました。最終的には、各チームに贈る23の活動奨励賞のタイトルを決定しました。

動画での発表は、メンバー同士または先生と真剣に議論している様子や、イベントに楽しそうに参加している参加者の様子、地域の方の声、どんな工程で作業をしているのか、どんな地域で活動しているかなど、それぞれのチームの工夫が盛り込まれた発表だったので、日頃の活動の様子が、よりリアルな形で伝わってきました。

｜活動を讃えあう「交流会」

●「活動奨励賞」

チームの発表やグループワークの話し合いを踏まえて、それぞれの活動の特徴や頑張っている点を評価しあう奨励賞を贈り合いました。23のユニークな賞が出揃い、参加者の代表がその賞になった理由を発表し、賞状を贈呈しました。

<「活動奨励賞」タイトル一覧>

- DIG'S…「地域の魅力を生かしているで賞」
- 一姓…「地域の魅力を生かしているで賞」
- ななちよ!…「観光地化頑張って欲しいで賞」
- SenS…「地域の人とめっちゃ仲がいいで賞」
- 生活デザイン学科15期生…「継続がうまくできているで賞」
- バンデイラ・ジ・オウロ…「成長に期待できるで賞」
- 県大 BASSER'S…「地道な調査が素晴らしいで賞」
- 信・楽・人…「手作り感が良いで賞」



- 県大地域食育推進隊…「将来安泰で賞」
- Harmony…「活動楽しそうで賞」
- 未来看護塾…「もう立派な看護師で賞」
- 能魅会…「昭和へのこだわりハンパじゃねえで賞」
- 男鬼楽座…「マニアックで賞」
- cococu…「ハイクオリティはもちろん、じっくり読み込んでもらいたいで賞」
- 古民家楽座…「フレッシュで今後に期待したいで賞」
- いしアート…「玄人賞」
- 木興プロジェクト…「バイタリティが大漁で賞」
- 菜の花エネルギー…「授業が面白そうで賞」
- おとくら…「2年目にしてはしっかりしてるで賞」
- とよさらだ…「毎日常ゴイで賞」
- とよさと快蔵プロジェクト…「豊郷大好きで賞」
- Taga-Town-Project…「遊び心満載で賞」
- あかりんちゅ…「浄土宗ネットワーク賞」

●「プレゼン賞」

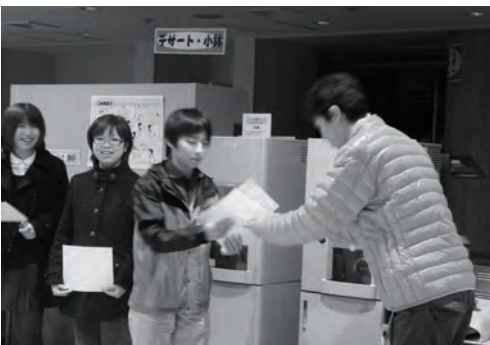
グループ発表ごとに、参加者がより活動をわかりやすく生き生きと伝えられていたと思うチームに投票し、票数の多かったチームに「プレゼン賞」を贈呈しました。山根周先生から受賞チームの発表と、投票コメントの紹介をしていただきました。また、副賞としてチームから賞品が贈呈されました。

○ グループ1 :「バンデイラ・ジ・オウロ」

全体が簡潔にまとまっていた。はじめに活動をわかりやすくまとめた動画を流すことで、あとの発表もイメージをわかせながら聞くことができた。メンバーが真剣に議論している様子も印象的だった。

○ グループ2 :「県大地域食育推進隊」

たくさんの活動をしている様子が伝わってくるプレゼンだった。配布資料とスライドをうまく組み合



わせ、わかりやすかった。動画にも丁寧にテロップが入っていたり、楽しいBGMも流れていて良かった。

○グループ3：「いしアート」

プロのカメラマンが関わっているだけあり、動画のクオリティが高かった。商店街の雰囲気、イベント直前の打ち合わせシーン、お客さんの表情、落語の様子など、より現場の様子をいろんな角度から伝えられていた。

○グループ4：「菜の花エネルギー」

音楽に合わせたカット割りが効果的で、テンポのよい動画が印象的だった。小学校への出前授業で、子どもたちがとても楽しそうに実験している様子をうまく伝えられていた。

最後に、座長の印南先生から総評をいただきま

した。楽座の特徴は、なんといっても学生主体であること。社会にでる前に、貴重な体験を積み重ねられる絶好の機会を逃さずに今後も頑張りたいという激励をいただきました。



3-3 近江学士(地域学)副専攻

本学の特徴を活用して、コミュニケーション力、行動力、問題解決力を高める全学共通教育課程の副専攻がスタートし、近江楽座と連携して、教育プログラムを実施しました。

Ⅰ 地域実践学実習Ⅰ、Ⅱ(試行授業)

近江楽座を体験し(楽座インターン)、地域活動の実践について現場で学ぶとともに、地域活動の実践に必要な、企画、マネジメント、情報発信などのスキルを修得する。楽座インターンにおいては、プロジェクトの長所および課題等の分析を行い、それを踏まえ、自ら地域貢献プロジェクトの企画立案が行えるようになることを目的としています。本年度は、次年度からの開講に向けて試行授業として行いました。

<授業実施状況>

● 地域実践学実習Ⅰ(履修者10名)

- ▽4月21日(木)6限 オリエンテーション(A2-201) (1コマ)
- ▽4月23日(土)9:30～18:00 近江楽座成果報告会(交流センター)(5コマ)
- ▽5月21日(土)9:00～13:30 近江楽座公開ブレゼンテーション審査会(A2-201)(3コマ)
- ▽6月20日(月)6限 楽座インターン準備講座(A1-301)(1コマ)
- ▽6月下旬～9月 楽座インターン(33コマ)
インターン先のチームと各自日程等の調整
◇インターン活動日誌(活動参加毎)の提出
◇インターン活動レポート(参加チーム毎)の提出(楽座チームのメンバーになっている学生は楽座での活動をインターン体験に読み替え)
- ▽9月(一部10月)楽座スキルアップ講座への参加(2コマ)(詳細は別項参照)

● 地域実践学実習Ⅱ(履修者26名)

- ▽10月20日(木)6限 オリエンテーション(A2-201) (1コマ)
- ▽10月28日(金)6限 楽座インターン準備講座(A1-301)(1コマ)
- ▽11月～1月 楽座インターン(33コマ)
インターン先のチームと各自日程等の調整
◇インターン活動日誌(活動参加毎)の提出
◇インターン活動レポート(参加チーム毎)の提出(楽座チームのメンバーになっている学生は楽座での活動をインターン体験に読み替え)
- ▽12月1～8日 近江楽座中間報告イベント「楽ゼミ」への参加(3コマ)
- ▽12月17日(土)13:00～17:30 環びわ湖大学地域交流フェスタ(立命館大学)(3コマ)
- ▽2月20日(月)3,4限 実習成果報告会(A4-205)(2コマ)
- ▽2月23日(水)3,4限 実習成果報告会(A4-205)(2コマ)



| 地元学入門

近江楽座担当教員によるオムニバス形式で、「近江楽座」の実施プロジェクトを題材にして、学生力を生かした地域貢献活動について学ぶ授業を実施しました。プロジェクトの学生メンバーがゲストスピーカーとして活動報告を行いました。



▽10月17日(月) 近江楽座事務局、近江楽座
学生委員会

▽10月24日(月) 県大BASSER'S、菜の花エネルギー

▽10月31日(月) とよさと快蔵プロジェクト

▽11月7日(月) 男鬼楽座、古民家楽座

▽11月21日(月) おとくらプロジェクト、DIG'S

▽11月28日(月) Taga-Town-Project、木興プロジェクト

▽12月5日(月) あかりんちゅ、能魅会

▽12月12日(月) ななちょ!、チーム・バンデ
ラ・ジ・オウロ

▽12月19日(月) ボランティアサークル
Harmony、未来看護塾

▽12月26日(月) とよさらだ、一姓、県大地域
食育推進隊

▽1月16日(月) 生活デザイン学科15期生、い
しアート

▽1月23日(月) SenS

▽1月30日(月) 信・楽・人-shigaraki field
gallery project、cococu-おうみの暮らしかた
ろぐ-



日 時：2012年4月14日(土) 9:20-17:30

会 場：講義室 A3-301

参加者：約 120 名

2011年度の近江楽座採択プロジェクトの活動報告会を行いました。

活動を今後にしっかり生かしていけるよう、会場から質疑・アドバイス等をいただくとともに、学内外から4人の事業評価委員をお願いし、客観的に評価していただきました。

当日は、チームのメンバー以外にも地域の方や指導教員、近江楽座の卒業生、他大学の学生、副専攻・近江学士の受講生など、合計約 120 名以上の参加がありました。

<事業評価委員>

○奥野修 さん(住みよいまち&絆研究所、2011年

度近江楽座プロジェクト審査委員)

- 高田友美 さん(滋賀大学特任准教授、近江環人2期生)
- 印南比呂志 先生(滋賀県立大学人間文化学部教授、近江楽座座長)
- 久保田貢 さん(滋賀県立大学 地域貢献研究推進グループ統括)

1 はじめに

大田理事長から、「近江楽座は、社会から教育していただけて学生が自ら体験できるすばらしい取り組みとして、外部から高い評価をいただいている。みなさんも近江楽座で多くのことを経験して行ってほしい」と、激励の言葉をいただきました。

1 活動発表とディスカッション

全 23 プロジェクトを、活動の継続年度の長さに応じて4つのパートに分け、パートごとに、チームからの発表とディスカッションを行いました。発表7分、質疑・地域の方からのコメント2分、ディスカッション約 30 分、発表時の司会はパート内のチームに、ディスカッションの進行は近江楽座専門委員会の先生が分担しました。

● パート1

継続年度7～8年のプロジェクトで、近江楽座発足時期から活動を続けている老舗チーム。ディスカッションの進行は未来看護塾指導教員の伊丹君和先生。「活動を継続する秘訣」や「課題」について、チームから意見を出してもらいました。会場からは、「この1年でどんな点が成長したと思えるか」「引き継ぎのコツは？」などの質問がありました。引き継ぎについては、「記録ノートをつける」



「後輩と一緒に活動するのが一番」など、他チームも参考にできるような活動ノウハウを聞くことができました。

●パート2

パート2のチームは、近江楽座活動年数が5～6年のチーム。古民家楽座・男鬼楽座指導教員の濱崎一志先生に進行いただいたディスカッションでは、「ぶれずにやってきたこと」と「変化したこと」について話してもらいました。

具体的な活動を定期的に継続しているチームや、毎年学生が入れ替わっても活動の理念を共有し続けるチームなどがありました。また「他チームとの連携」の現状や希望についても話し合いました。年々、楽座チーム内で連携を図る例が増えてきています。拠点がある、具体的なコンテンツがあるなど、それぞれの特性をうまく生かした取り組みが増えていくことを願っています。

●パート3

パート3は活動年数が2～3年のチーム。進行は、いしアートの指導教員の佐々木一泰先生。立ち上げの時期を越えて、ある程度活動が軌道に

乗ってきたチームに対して、「課題として見えてきたこと」「活動の記録をどのようにしているか（技術の積み上げ）」「予算（助成を受けること）をどう考えているか」「地域に対する自分たちの活動の目的は？」という問いを投げかけ、それぞれのチームが応えながら、これからの活動について議論しました。

●パート4

パート4は、新規プロジェクトと活動2年目のチーム。進行は、近江楽座専門委員会の柴田裕希先生。前パートに引き続き、「自立をどう考えるか」について焦点が当てられました。すでに楽座からの自立をはっきりと目標にしているチームや、まずは体制を整えたり、活動の軸をはっきりさせたいという意見がありました。また会場からは、継続性に関して、一年ごとに審査する「近江楽座のしくみ」に関して問題提起があり、意見交換が行われました。

さらに、実際に活動する学生が、それぞれの体験を通して多くの意見を出してくれるようになれば、より意味深い報告会になっていくと思われるます。

<活動報告会 グループ分け>

パート1 (9:30～10:55)	パート2 (11:05～12:30)	パート3 (13:30～15:10)	パート4 (15:10～17:10)
未来看護塾	ボランティアサークル Harmony	あかりんちゅ	県大地域食育推進隊
Taga-Town-Project	DIGS	ななちよ!	おとくらプロジェクト
とよさと快蔵プロジェクト	古民家楽座	とよさらだ	バンデイル・ジ・オウロ
菜の花エネルギー	生活デザイン学科 15 期生	一姓	木興プロジェクト
男鬼楽座	信・楽・人	いしアート	県大 BASSER'S
		cococu	SenS
			能魅会 (のみかい)

｜ 全体総括

最後に、事業評価委員のみなさんからのコメントをいただきました。

○久保田さん

「近江楽座事務局としては、地域の熱意を引き出すような活動を応援していきたい。地域のニーズをしっかりと取り入れ、スポンサーとなってくれる人たちを見つけれられるくらいになって欲しい。」

○奥野さん

「立ち上げメンバーを中心はずっと活動を続けていくNPOと比較すると、近江楽座での活動は世代間のバトンタッチがとても重要だと感じた。一日を通して学生からも積極的に意見が出ることに感心した。自分たちの活動に自信を持って、今後取り組んで欲しい。」

○高田さん

「先輩として、地域住民として、また滋賀大で学生を教える立場という3つの目線で聞いた。学生が地域に入ってがんばってくれるのはとても嬉しいこと。一緒にやってくれる大人をうまく巻き込んで、どんどんいろんなことにチャレンジして欲しい。」

○印南先生

「上回生が活動を引っ張って行くのが中心だった数年前に比べ、2・3回生の力を感じた。学生という若い人たちに"地域の代弁者"になって欲しい。それができて始めて地域貢献になると心得て活動してほしい。」

引き続き、先生は、「創造し、発信していくためには新しい考え方・感性が必要です…」という高知県黒潮町の「砂浜美術館」の宣言文を読み上げ、学生たちの活動にエールを送りました。





そして全体を振り返って、今回の報告会は、活動の継続年度に応じてパート分けをしたことで、問題課題の共有をしてもらいやすい議論ができたのではないかと思います。活動を立ち上げたバイタリティで、地域とのつながりなど活動の基盤を作っていく新規プロジェクト。徐々にできてきた基盤をもとに活動の充実を図りながら、活動のこれからのこともちらついてくる2～3年目のプロジェクト。活動5～6年目では、活動をどう発展させるか、またどう継続させるか課題となってきます。近江楽座発足当初から続く7～8年目のプロジェクトでは、コツコツ積み上げてきたものが地域に定着してくる中で、長年の問題も定着しないような動きが必要な時期かもしれません。

1～数年のスパンで入れ替わってしまう学生活動ですが、その良さがうまく地域に生かされていってほしいと思いますと、総括されました。

4 学生有志活動

4-2 近江楽座学生委員会

｜ 学生委員会とは

近江楽座をさらに推進していくために、チーム間の交流・連携を目的として発足した有志学生による組織です。2006年に、当時のプロジェクトチームの代表経験者が中心となり結成されました。学部・学科・プロジェクトの枠を超えて活動の輪を広げ、地域活性化に貢献するためのネットワーク形成を目指し、学生ならではの視点で近江楽座をサポートしています。

2011年度の学生委員会は、交流会と合わせて、チーム間の情報共有のための新しい取り組みも企画しました。

｜ チーム間交流会「ゾロゾロ会」

「ゾロゾロ会」とは、チーム間の交流を主な目的として、2009年度に始まった取り組みです。2011年度は計6回開催しました。

○第8回ゾロゾロ会 生春巻きパーティ

日 時：2011年6月22日(水)

会 場：交流センター研修室1~3

参加者：22名(10チーム)

○第9回ゾロゾロ会 そうめんパーティ

日 時：2011年7月13日(水)

会 場：交流センター研修室1~3

参加者：15名(6チーム)

○第10回ゾロゾロ会 コーヒードリップ体験&手打ちうどん

日 時：2011年9月29日(木)

会 場：座・楽庵、交流センター研修室5,6

参加者：14名(5チーム)

内 容：前半は「おとくらプロジェクト」の活動



拠点"座・楽庵"でコーヒードリップ体験、後半は学内で手打ちうどんを作り交流の場を持ちました。

(2011年8月5日に告知のための説明会を行った)

○第11回ゾロゾロ会 動画作成ワークショップ

日時: 2011年11月25日(金) 16:30-18:00

会場: 情報処理演習室3(A5-203)

参加者: 17名(9チーム)

内容: 別頁参照

○第12回ゾロゾロ会 楽ゼミ番外編

日時: 2011年12月21日(水)、22日(木)

会場: 講義室 A4-303

参加者: 8名(4チーム+OG)

内容: 2011年12月上旬に行った中間報告会「楽ゼミ」での内容をさらに深め、近江楽座のこれからについて考えました。

○第13回ゾロゾロ会 新入生説明会の企画をしよう!

日時: 2012年1月20日(金) 18:20-19:50

会場: 講義室 A4-301

参加者:

内容: 2012年度4月開催の「近江楽座合同説明会」のアイデア出しなどを行いました。



| 情報共有のための試み「総会」

日時: 2012年1月12日(木) 12:30-13:00

会場: 講義室 A4-107

参加者: 約20名(13チーム)

1年間の活動を通して見えてきた、"チーム間でもより確実に情報を共有するためにはどうしたらいいか"という課題に対して、試験的に行った企画。昼休みの30分間で全チームが集まり、お互いにイベントの告知や話し合いができるような時間となることを目指して開催しました。この時期は年度末のまとめの時期が近づいていたことから、事務局への質問タイムを設けたり、直近のゾロゾロ会の告知などを行いました。

4-3 動画作成ワークショップ

日 時：2011 年 11 月 25 日 (金) 16:30-18:00

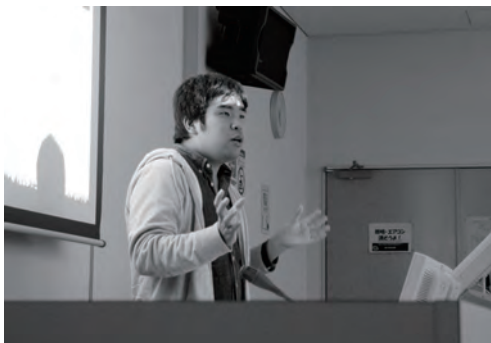
会 場：情報処理演習室 A5-203

参加者：17 名 (9 チーム)

この会は、2011 年度の近江楽座中間報告イベントに向け、発表用の動画作成のサポートとして、特別に行ったスキルアップ講座です。

講師として、「びわ湖 e-まち映像協議会」の中の学生団体「S-project」の代表・メンバーとして活躍されている、龍谷大学 理工学部情報メディア学科の岩嶋浩樹先生と、同社会学部 4 回生の矢部大介さん、同理工学部 3 回生の頭司佳那江さんにお越しいただきました。

作業には、「Windows ムービーメーカー」を使用。動画の編集はほぼ初めてという学生が多い中、わかりやすい説明やオリジナルの資料で、とてもいいいに教えていただきました。



5 他大学等との交流

日 時：2011年10月29日(土) 11:00-15:30

会 場：犬上郡豊郷町、多賀町

兵庫県立大学から学生10名、先生7名が、「近江楽座フィールドワーク」と題して、近江楽座の視察にみえました。

兵庫県立大学 環境人間学部では、2011年3月にエコ・ヒューマン地域連携センターを開設。センターでは地域での学生活動に対して支援を行っており、17のプロジェクトが活動しています。

視察の受け入れは、豊郷町で活動する「とよさらだ」「とよさと快蔵プロジェクト」と、多賀町で活動する「Taga-Town-Project」の3チームが行いました。

<スケジュール>

11:00 豊郷町旧豊郷小学校前で合流

【とよさらだプロジェクト】見学

12:30 昼食 (Bar タルタルーガ※)

【とよさと快蔵プロジェクト】見学

※とよさと快蔵プロジェクトが整備し、学生が運営

14:00 豊郷町出発

14:15 多賀町着

【Taga-Town-Project】見学

15:30 多賀町出発

○使われていないビニールハウスで野菜作り! ～とよさらだプロジェクト～

とよさらだプロジェクトは、使われていないビニールハウスを利用して野菜を育て、滋賀県立大学の学食やJA、朝市で販売しているプロジェクトです。この日はネギやじゃがいも、白菜などを栽培中の畑とビニールハウスを見せてもらいました。畑にのあちこちに掘られた落とし穴は、水がたまり

やすい畑での雨対策の工夫。ご地域の方にこのようなコツを教えてもらいながら、野菜を育てているそうです。

○使われていない古民家の改修・活用 ～とよさと快蔵プロジェクト～

とよさと快蔵プロジェクトは、豊郷町にある、使われていない古い民家を改修・活用するプロジェクト。地域の職人さんや建築家の方から指導を受けながら、学生シェアハウスや地域の方とのコミュニティスペース、バーなどとして活用しています。この日は物件の改修中で、作業を見せてもらったあと、Bar タルタルーガスタッフお手製の、とても美味しいカレーをいただきました。

○まちの魅力を見つけて、発信する ～Taga-Town-Project～

「Taga-Town-Project」は、学生の目線で多賀の魅力を見つけ出し、まちの内外に発信していくプロジェクト。この日はチームの活動拠点である「八百秀アパート201号室」を視察。徐々に改装を進めながら、古本市などの地域イベントを開催しています。これまでにない人数の来客に驚きながらも、いろいろな質問に答えてくれ、賑やかさが一層際立つ時間を過ごしました。

全体を通じて、それぞれの活動現場では質問が次々と飛び交い、自分たちの活動に活かせることがないかと、積極的に学び取ろうとする姿勢がとても刺激を受けました。今後もこのような交流を続け、お互いに切磋琢磨できたら素晴らしいと思います。



5-2 環びわ湖大学地域交流フェスタ 2011



日 時：2011年12月17日(土)
 会 場：立命館大学 BKC キャンパス「エポック立命 21」

県内 13 大学と行政、経済団体・企業等が加盟する環びわ湖大学・地域コンソーシアムが、「市民と連携する大学と地域の協働のカタチ」をテーマに、大学地域交流フェスタを開催しました。

ポスター発表と実践交流会に、近江楽座から、



「木興プロジェクト」「信・楽・人」が参加、活動報告を行い、他大学や地域との交流を深めました。

<実践交流会の内容>

●セッション1：東日本大震災と復興支援

1. 被災した写真の修復ボランティア (成安造形大学)
2. 木工で復興支援—漁業関係者のための小屋づくり (滋賀県立大学)
3. 東日本大震災地域復興支援学生ボランティア派遣事業 (環びわ湖大学・地域コンソーシアム学生支援事業)

●セッション2：シティ・プロモーション

1. 大津祭公式キャラクター「ちま吉」総合プロデュースプロジェクト (成安造形大学・NPO 法人大津祭曳山連盟、大津市域)
2. 信楽の魅力を再発見、発信する活動と Ogama (おおがま) 改装プロジェクト (滋賀県立大学・明山陶業株式会社、甲賀市域)
3. ママ(パパ) とこどもの「遊び場 MAP」の情報発信活動で、市民と地域生活施設を結ぶ(立命館大学、草津市域)

●セッション3：地域再発見

「アクティブ滋賀 そや!琵琶湖へ行こう」をテーマに実施した学生支援事業の報告。





情報発信

近江楽座ホームページの運営

滋賀県立大学における、学生の地域活動に関するポータルサイトである近江楽座ホームページの運営を行っています。多くの人に活動の様子を見てもらえるサイトにカスタマイズするため、引き続きコンテンツのリニューアルを行いました。

<リニューアル内容>

- 活動写真のライドショー設置



近江楽座ホームページ (<http://ohmirakuza.net>)

プロジェクトレポート

事務局スタッフが、実際にプロジェクトの現場を訪れ、活動レポートを作成・発行しました。本年度は計5号発行。地図や解説図を入れることで、わかりやすいレポートになるよう心がけました。

発行したレポートは、学内食堂前にある近江楽座掲示板と、近江楽座ホームページ上で掲載しました。

<2011年度プロジェクトレポート>

- [Taga-Town-Project] 八百秀アパート 仮オープンイベント
- [おとくら] おとくらコンサート
- [SenS] エコ民家オープンハウス・まちあるき
- [菜の花エネルギー] 出前授業
- [能魅会] レトロカフェオープン

活動紹介リーフレット 2011

近江楽座プロジェクトで活動する学生に依頼し、近江楽座全体の取り組みや、本年度近江楽座に採択された23プロジェクトを写真入りで紹介するリーフレットを作成しました。



プロジェクトレポート



近江楽座活動紹介リーフレット 2011

6-2 京都新聞 夕刊特集「@キャンパス」

「@キャンパス」は、京都新聞夕刊の特集で、滋賀・京都の大学生が、まち、社会、文化、大学、学生、教育などをテーマに、自分たちで取材・記事作成を行うページです。毎週水曜の2・3面に、大きく見開きカラーで掲載されました。

近江楽座からは、5つの活動テーマごとに計14チームが記事を担当しました。毎回ごと顔合わせから発行まで約1～2ヶ月ほどかかっている力作で

す。各回のメイン記事は、担当チームが京都新聞さんと企画したもので、twitterでの対談やお互いの活動の体験レポートリレー、地域の方へのインタビューなど、ユニークな企画が出揃いました。

★各紙面は、近江楽座ホームページ「OFFICE NEWS」にて閲覧いただけます。

｜ 第1号：『古民家再生 新しい絆』

発行日：2011年6月15日(水)

担当チーム：「とよさと快蔵プロジェクト」、「信・楽・人-shigaraki field gallery project」



｜ 第2号：『農、食結ぶ 人の輪』

発行日：2011年7月27日(水)

担当チーム：「一姓」、「県大地域食育推進隊」、「とよさらだ」



| 第3号：『違い超え共に生きる』

発行日：2011年10月19日(水)

担当チーム：「バンデira・ジ・オウロ」、「未来看護塾」、「ボランティアサークル Harmony」



| 第4号：『人とすまい 本質に迫る』

発行日：2011年12月21日(水)

担当チーム：「古民家楽座」、「男鬼楽座」、「Taga-Town-Project」



| 第5号：『まちをともしたい』

発行日：2012年4月4日(水)

担当チーム：「あかりんちゅ」、「DIG'S」、「いしアート」



7 付録



7-1 プログラム推進メンバー※

事業推進代表者

滋賀県立大学理事長 曾我直弘

事業推進責任者

近江楽座専門委員会 委員長 印南比呂志

近江楽座専門委員会

環境科学部

浦部美佐子

野間直彦

小野奈々

松岡拓公雄

村上修一

迫田正美

杉浦省三

工学部

徳満勝久

河崎澄

柳澤淳一

人間文化学部

濱崎一志

石川慎治

印南比呂志

山根周

細馬宏通

人間看護学部

伊丹君和

本田可奈子

全学共通教育推進機構

鵜飼修

地域づくり教育研究センター

奥貫隆

森川稔

近江楽座事務局

秦憲志

稲葉結実

竹村香織

※ 2011年度(平成24年3月末時点)

このほか、近江楽座に関わり支援いただいたすべての方にお礼申し上げます。



7-2 メディア掲載一覧

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
1	2011.4.24	県大地域食育推進隊	中日新聞	地域活動の実績報告、「地域食育推進隊の活動と発表写真」
2	2011.6.25	県大地域食育推進隊	高島調理師会報	「野菜たっぷり店」ロゴマーク 作成
3	2011 夏号	県大地域食育推進隊	湖西の保健福祉だより 滋賀県高島健康福祉事務所発行	はじめまして「野菜たっぷり店」イラスト協力
4	2011.7.27	県大地域食育推進隊	京都新聞 @キャンパス	農、食結ぶ人の輪
5	2011.10.21	県大地域食育推進隊	読賣新聞 しが県民情報	ユニーク学食の中で、生協と共同で行っている骨密度測定の実施が掲載
6	2011.11.22	県大地域食育推進隊	NHK ニュース	ひこね丼選手権
7	2011.11.22	県大地域食育推進隊	KBS キラリン滋賀	ひこね丼選手権
8	2011.11.23	県大地域食育推進隊	毎日新聞	ひこね丼選手権
9	2011.11.22	県大地域食育推進隊	FM ラジオひこね	ひこね丼選手権
10	2012.1.22	県大地域食育推進隊	びわこ放送 びわこカンパニー	ひこね食育講演会で地産地消、環境こだわり農産物 PR の模様が放映
11	2012.1.29	県大地域食育推進隊	びわこ放送 びわこカンパニー	ひこね食育講演会で地産地消、こだわり農産物 PR の模様が放映
12		県大地域食育推進隊	平和堂 CSR 報告書 2011	「滋賀県立大学県大地域食育推進隊」の皆様とともに食育活動を推進
13		県大地域食育推進隊	滋賀県食のブランド推進課	中庭カフェでの「環境こだわり農産物」PR
14	2011.5.3	木興プロジェクト	中日新聞	漁業の拠点を被災地に建設
15	2011.8.14	木興プロジェクト	NHK 宮城県	
16	2011.8.17	木興プロジェクト	NHK 滋賀県	
17	2011.8.20	木興プロジェクト	河北新報	漁再開の拠点到 滋賀の大学生が南三陸町番屋建設
18	2011.9.21	木興プロジェクト	しが彦根新聞	滋賀県立大学 近江楽座・学生グループと鶴飼修准教授ら環人ネット 南三陸町田の浦地区で復興支援プロジェクト
19	2011.11.1	木興プロジェクト	読売新聞	専攻生かし笑顔を
20	2011.11.17	菜の花エネルギー	ZTV おうみがわら	県立大学 出前授業
21	2011.6.15	とよさと快蔵プロジェクト	京都新聞 @キャンパス	古民家再生 新しい絆
22	2011.7.20	とよさと快蔵プロジェクト	電通育英会広報誌 IKUEI NEWS	地域に住み、地域と共生する古民家再生プロジェクト
23	2011.10.29	とよさと快蔵プロジェクト	兵庫県立大学	近江楽座視察 (TTP、とよさらだ、快蔵)
24	2011.12.17	とよさと快蔵プロジェクト	琵琶湖放送 おうみをDIGZAG	豊郷町編
25	2011.12.20	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞	改修中の民家 活用方法練る
26	2012.2.28	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞	「湖東の魅力」など発表 まちづくり活動の県立大生
27	2011.5.18	とよさらだ	京都新聞・中日新聞	豊郷を元気に 学生が米作り 県立大サークル「とよさらだ」
28	2011.7.27	とよさらだ	京都新聞 @キャンパス	農、食結ぶ人の輪
29	2011.10.5	とよさらだ	京都新聞	坊ちゃんかぼちゃ ジャムに
30	2011.10.29	とよさらだ	兵庫県立大学	近江楽座視察 (TTP、とよさらだ、快蔵)

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
31	2011.11.7	とよさらだ	UNN関西学生報道連盟 FOCUS	耕作放棄地で野菜づくり 大学生に関するミニ特集など毎週あるテーマに「焦点」を当てていく。
32	2011.12.16	とよさらだ	びわ湖放送 キラりん滋賀	滋賀県立大学 キャンパスライフ
33	2011.8.25	バンデイラ・ジ・オウロ	京都新聞	ブラジル人園児らハクサイの苗植え
34	2011.8.28	バンデイラ・ジ・オウロ	中日新聞	県立大生と苗植え楽しく ブラジル人保育園で交流
35	2011.10.19	バンデイラ・ジ・オウロ	京都新聞 @キャンパス	違い超え共に生きる
36	2011.7.15	男鬼楽座	広報ひこね	イベント告知
37	2011.12.21	男鬼楽座	京都新聞	人どすまい 本質に迫る
38	2011.7.27	一姓	京都新聞	農、食結ぶ人の輪
39	2011.4.8	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	高宮神社太鼓おわたり神事
40	2011.11	おとくらプロジェクト	読売新聞	おとくら 2周年記念コンサート vol.2 ～クニ三上トリオ
41	2011.11	おとくらプロジェクト	Chekipon	高宮布の旧商家でほっとひと息
42	2012.3.10	おとくらプロジェクト	びいめ〜る	4月号に掲載
43	2011.4.28	あかりんちゅ	NHK 天津 おうみ 610	滋賀で頑張る人達を応援する番組
44	2011.6	あかりんちゅ	BBC 放送 フレフレ!アミンチュ	滋賀で頑張る人達を応援する番組
45	2011.6.10	あかりんちゅ	ひこね広報	省エネ特集
46	2011.8.11	あかりんちゅ	KBS ラジオ 音楽わいど ラジオビュー	ごきげんさんち
47	2011.11.8	あかりんちゅ	京都新聞	廃ろうそく鎮魂の灯りに 上京の男性 滋賀県立大生に寄贈
48	2012.4.4	あかりんちゅ	京都新聞 @キャンパス	まちをともしたい
49	2011.12.16	あかりんちゅ	BBC 放送 キラりん滋賀	インフォマーシャルコーナー
50	2012.1.3	DIG'S	京都新聞	学生カフェから「地域」発信
51	2012.4.4	DIG'S	京都新聞 @キャンパス	まちをともしたい
52	2011.12.19	県大 BASSER'S	テレビ朝日 スーパーJチャンネル	東本願寺の侵略的外来種
53	2012.1.31	県大 BASSER'S	読売新聞	守ろう 琵琶湖の在来種
54	2011.12.21	古民家楽座	京都新聞 @キャンパス	人どすまい 本質に迫る
55	2011.10.29	Taga-Town-Project	兵庫県立大学	近江楽座視察 (TTP、とよさらだ、快感)
56	2011.12.21	Taga-Town-Project	京都新聞 @キャンパス	人どすまい 本質に迫る
57	2011.6.15	信・楽・人 -shigaraki field gallery project-	京都新聞 @キャンパス	古民家再生 新しい絆
58	2011年 春号	信・楽・人 -shigaraki field gallery project-	地域創造	目指せ”まちなか再生”
59	2011.6.1	信・楽・人 -shigaraki field gallery project-	関西・中国・四国じゃらん	うつわさんぼ
60	2011.6	信・楽・人 -shigaraki field gallery project-	えるまが MOOK 「滋賀の本」	お気に入りの探して…窯元探索
61	2011.9.15	信・楽・人 -shigaraki field gallery project-	じゃらんムック本「おとなのためのちょっと贅沢な旅」	江戸時代から火の絶えない窯元へ

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
62	2011.10.1	信・楽・人-shigaraki field gallery project-	地方情報誌 Hotori	時を刻む六古窯の里へ 旅する信楽
63	2011.10.23	信・楽・人-shigaraki field gallery project-	女性情報誌・月刊 SAVVY	信楽高原鐵道の旅
64	2012.1.20	信・楽・人-shigaraki field gallery project-	るるぶ滋賀びわ湖'12	エリア・信楽 甲賀
65	2012.4	信・楽・人-shigaraki field gallery project-	まっぶるマガジン滋賀・びわ湖	未定
66	2011.8.20	ななちよ!	びわこ放送 おうみをDIGZAG	七曲りの紹介
67	2012.1.7	ななちよ!	しが彦根新聞	七曲り通り 紹介マップ
68	2011.9.20	能魅会(のみかい)	読売新聞	昭和レトロなカフェ
69	2011.10.26	能魅会(のみかい)	e ラジオ	カフェ・ラリルレトロ
70	2011.12.3	能魅会(のみかい)	東近江ラジオ	カフェ・ラリルレトロ
71	2011.4.20	未来看護塾	産経新聞	近江人巡り
72	2011.10.19	未来看護塾	しが彦根新聞	障害児の「はばたき」に
73	2011.10.19	未来看護塾	京都新聞 @キャンパス	違い超え共に生きる
74	2011.12.21	未来看護塾	滋賀夕刊	小児病棟にサンタさん
75	2012.2.23	未来看護塾	三陸新聞	自慢のスープふるまう
76	2012.3.6	未来看護塾	讀賣新聞	車いすで街へ
77	2011.10.19	ボランティアサークル Harmony	京都新聞 @キャンパス	違い超え共に生きる
78	2012.3.20	cococu- おうみの暮らしかたろぐ-	読売新聞 しが県民情報	湖国の魅力 全国へ
79	2011.7.30	いしアート	中日新聞	落語で地域盛り上げる 石山アートプロジェクト
80	2011.11.11	いしアート	京都新聞	落語家招き寄席 あす石山商店街
81	2012.4.4	いしアート	京都新聞 @キャンパス	まちをともしたい
82	2012.4.15	近江楽座	京都新聞	古民家改修や被災地支援活性化 取り組み報告 県立大、学生らの近江楽座
83	2012.4.15	近江楽座	中日新聞	「近江楽座」活動 県立大生ふり返る

公立大学法人 滋賀県立大学
スチューデントファーム「近江楽座」
まち・むら・くらしふれあい工舎

2011 年度活動報告書

平成 24 年 10 月発行

発行	公立大学法人 滋賀県立大学 地域づくり教育研究センター 〒 522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 TEL. 0749-28-8616 FAX. 0749-28-8473
企画・編集	近江楽座事務局
印刷・製本	近江印刷株式会社
構成・デザイン	稲葉結実

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています

最新情報は、近江楽座ホームページ：<http://ohmirakuza.net> をぜひご覧ください

近江楽座

まち・むら・くらしふれあい工舎